
平成 22 年度 平塚市美術館年報

ANNUAL REPORT of the Hiratsuka Museum of Art 2010

April 2010 - March 2011

平成 22 年度年報 目次

作品・資料	3
(1) 収集	
(2) 展示	
(3) 貸与	
展覧会	6
1 特集展 新収蔵品展	
2 企画展 平明・静謐・孤高 - 長谷川湊二郎展	
3 特集展 黒崎俊雄展 UGOUGO	
4 企画展 世界の絵本がやってきた プラティスラヴァ世界絵本原画展	
5 特集展 スペイン・リアリズムの密度 磯江毅展	
6 企画展 堀文子展	
7 特集展 高瀬省三・石橋聖肖展	
8 ロビー展 「モノ・黒」樋口健彦の仕事 2005-2010	
9 特集展 春の所蔵品展 東洋を描く湘南の洋画家たち	
教育普及	29
その他の事業	33
(1) 事業	
(2) 団体向け研修・体験プログラム	
(3) 職場体験	
(4) 定例会議	
(5) 「平塚市美術館友の会」活動	
(6) その他	
施設利用者等の統計	38
(1) 展覧会	
(2) 貸出施設	
施設の管理	40
(1) 防災訓練	
(2) 自動ドア修繕工事	
(3) エレベーター修繕工事	
沿革	41

作品・資料

購入作品

作家名	作品名	制作年	サイズ(cm)	材質	点数
海老原喜之助	曲馬	1930年頃	72.8×100.2	油彩・キャンバス	1
久野和洋	複製画のある静物	2009年	130.3×130.3	油彩・キャンバス	1
黒川弘毅	EROS 72	2009年	90.5×58.0×19.0	ブロンズ	1
福井江太郎	集	1996年	180.0×720.0	彩色・紙/パネル8枚	1
三輪休雪	黒の風景	1982年	70.5×60.5×17.0	陶磁	1
山本直彰	帰還	2009年	363.6×333.3	彩色・紙	1
					計6

寄贈作品

作家名	作品名	制作年	サイズ(cm)	材質	点数
湯原和夫	意味の自由区 No.4-88	1988年	288.0×124.0×162.0	コールテン鋼	1
湯原和夫	必然の形	1974年	47.0×47.0×47.0	クロームメッキ・鉄	1
湯原和夫	作品 No.4-68	1968年	13.5×13.5×18.5	メタル塗装・ステンレス	1
伊東万耀	女	1968年	196.0×127.0	彩色・紙	1
伊東万耀	律	1964-65年	164.0×143.5	彩色・紙	1
伊東万耀	長夜	1950年	157.0×171.5	彩色・紙	1
川村清雄	瀧(仮称)	1926-34年	198.0×73.0	油彩・キャンバス	1
黒崎俊雄	無題	1979年	100.0×80.0	油彩・キャンバス	1
黒崎俊雄	無題	1979年	100.0×80.0	油彩・キャンバス	1
黒川弘毅	無題	1979年	100.0×70.0	紙・インク、グアッシュ	1
黒崎俊雄	無題	2008年	200.0×240.0	アクリル・キャンバス	1
黒崎俊雄	無題	2010年	210.0×480.0	アクリル・キャンバス	1
高良眞木	油彩とデッサン一式	-	-	-	135
小山敬三	晩秋飛瀑	1977年	119.1×74.5	彩色・紙	1
佐藤晨	失われた季節	1971年	181.8×227.3	彩色・紙	1
佐藤晨	蒼夜	1987年	227.3×181.8	彩色・紙	1
鳥海青児	ブラインドを降ろす男	1950年	45.5×33.5	油彩・キャンバス	1
藤山貴司	流出する子供達	1996年	113.0×490.0	木炭・紙	1
藤山貴司	流出する子供達・ファミリーガーデン	1996年	250.0×270.0	木炭・紙	1
藤山貴司	3本のノアの木	1996年	223.5×339.0	木炭、水彩・紙	1
藤山貴司	流出する子供達	1996年	194.0×500.0	木炭、コンテ・紙	1
藤山貴司	LA TOUR になる為の・NAGASAKI TREE	1997年	265.0×504.0	木炭、アクリル・紙	1
藤山貴司	盲目うさぎは舌で世界を知覚する	1997年	150.0×200.0	木炭、アクリル、コンテ、顔料・紙	1

藤山貴司	壺抜けうさぎ・言葉によって語られるものと 数字で語る こと	1998 年	144.0×222.0	木炭、アクリル・紙	1
松尾敏男	北海	1967 年	227.0×162.0	彩色・紙	1
松尾敏男	コンコルドの風	2005 年	171.1×363.6	彩色・紙	1
三輪休雪(龍作)	黒の風景	1982 年	47.0×53.0×19.5	陶磁	1
保田春彦	(白い風景) シリーズ III~XV	2004 年	-	アクリル・木	13
					計 174

寄託作品

作家名	作品名	制作年	サイズ(cm)	材質	点数
岡村桂三郎	アノクタ	1989 年頃	95.0×107.0	岩絵具・板	1
岡村桂三郎	光背	1991 年頃	171.0×75.0	岩絵具、板・木	1
岸田劉生	大連風景(路傍秋晴)	1929 年	23.7×33.0	油彩・板	1
岸田劉生	大連風景(小島邸の庭より)	1929 年	22.5×32.5	油彩・板	1
岸田劉生	緑玉一房金珠一連	1923 年	24.8×32.9	油彩・板	1
岸田劉生	森川座八月狂言	不詳	14.2×9.0	水彩・紙	1
岸田劉生	松坂屋風景	1926-29 年	24.7×17.0	墨・紙	1
岸田劉生	新富座	1922 年	12.8×50.1	クレヨン・紙	1
岸田劉生	調脂弄粉	1927 年	33.2×44.6	彩色・紙	1
岸田劉生	童子煎茶	2009 年	66.2×21.2	彩色・紙	1
岸田劉生	囲碁雑誌表紙「棋道」原画シリーズ	1929 年	-	彩色・紙	12
黒崎俊雄	無題	2007 年	200.7×249.6	アクリル・紙	1
長谷川湊二郎	風景	1930 年代	24.0×33.5	油彩・キャンバス	1
長谷川湊二郎	巴里郊外	1931 年	41.8×32.0	油彩・キャンバス	1
長谷川湊二郎	風景	1932 年	24.5×34.5	油彩・キャンバス	1
長谷川湊二郎	茄子其他	1964 年	46.0×53.0	油彩・キャンバス	1
長谷川湊二郎	箱	1965 年	27.0×41.0	油彩・キャンバス	1
長谷川湊二郎	春	1971 年	45.0×38.0	油彩・キャンバス	1
長谷川湊二郎	玩具と絵本	1979 年	41.0×53.0	油彩・キャンバス	1
長谷川湊二郎	蜜柑の静物	1979 年	38.2×45.5	油彩・キャンバス	1
長谷川湊二郎	静物	1979 年	27.0×45.5	油彩・キャンバス	1
長谷川湊二郎	キャラメル	1980 年代	13.9×17.9	油彩・キャンバス	1
長谷川湊二郎	葡萄	1982 年	31.8×40.9	油彩・キャンバス	1
マコトフジムラ	神の窓	1990 年代	40.0×40.0	彩色・パネル	1
山元春挙	秋の水	不詳	60.0×70.0	彩色・絹	1
横山大観	北陸の海	1918 年	153.5×65.5	彩色・絹	1
					計 37

(2) 展示

当館展覧会において下表の通り作品を展示しました。

NO	種別	展覧会名	総出品点数	うち所蔵・寄託	うち借用
1	特集展	新収蔵品展	23	23	0
2	企画展	平明・静謐・孤高 - 長谷川瀧二郎展	130	0	130
3	特集展	黒崎俊雄展 UGOUGO	24	0	24
4	企画展	ブラティスラヴァ世界絵本原画展	400	0	400
5	特集展	スペイン・リアリズムの密度 磯江毅展	56	0	56
6	企画展	堀文字子展	80	1	79
7	特集展	高瀬省三・石橋聖肖展	51	0	51
8	特集展	ロビー展「モノ・黒」樋口健彦の仕事 2005-2010	17	1	18
9	特集展	春の所蔵品展 東洋を描く湘南の洋画家たち	49	49	0
計	-	-	830点	74点	758点

(3) 貸与

開催展覧会の内容や意義、開催場所の設備・環境、作品の状態や当館での利用予定などを考慮し、下表の通り貸出しました。

NO	貸出先	展覧会名・会期	点数	作家・作品名
1	天心記念五浦美術館、高島屋東京店	山本丘人 - 魂の抒情詩展 五浦：4/24～5/30 高島屋：6/2～6/21	2	山本丘人「岩壁」(寄託作品)、「海道の径」(寄託作品)
2	ニューオータニ美術館	安田鞞彦展 - 花を愛でる心 3/13 - 4/18	2	安田鞞彦「新蔬」「寒香留古春」
3	名古屋・松坂屋美術館、水野美術館	近代日本の巨匠 - 文化勲章展 松坂屋美術館：3/6 - 4/11 水野美術館：4/17 - 5/23	5	安田鞞彦「赤星母堂像」小糸源太郎「早春」小山敬三「晩秋飛瀑」淀井敏夫「トレドの羊飼いい」山本丘人「奔流」(寄託作品)
4	川崎市市民ミュージアム	安田鞞彦展 3/13 - 4/18	2	安田鞞彦「日食」「孔子観河」
5	埼玉県立近代美術館	南画の近代 - 自由な表現を求めて 1/30 - 4/18	3	萬鉄五郎「茅ヶ崎風景」「田園風景」「湘南風景」
6	大阪高島屋、日本橋高島屋、岡山県立美術館、名古屋・松坂屋美術館	没後10年記念 三岸節子展 大阪高島屋：3/31 - 4/19 日本橋高島屋：4/22 - 5/10 岡山県立美術館：6/8 - 7/4 名古屋・松坂屋美術館：7/7 - 8/1	1	三岸節子「アルス村の広場」(寄託)
7	巨櫛の居ホール&ギャラリー(小田原・旧岩瀬邸内)	横田七郎回顧展 6/5 - 6/20	2	横田七郎「めざし」「骸」
8	霧島アートの森	三沢厚彦展 7/16 - 9/23	2	三沢厚彦「ANIMALS2007-01」「ANIMALS2007-02」(寄託)
9	池田町立美術館	山下大五郎展 - 私の安曇野、私の日本原風景 - 7/24 - 10/24	7	山下大五郎「平塚風景」「早春」「砂丘」「祭の森」萬鉄五郎「湘南風景」「海岸風景」原精一「桐生風景」
10	浜松市秋野不矩美術館	秋野不矩・梶原緋佐子・北澤映月三人展 10/9 - 11/14	1	北澤映月「女人記」
11	明治神宮文化館	明治神宮鎮座90年記念展 10/2-11/28	1	横山大観「不盡之高嶺」

12	神奈川県立近代美術館	保田春彦展 9/18 - 12/26	4	保田春彦「白い風景」「白い風景」「白い風景」「白い風景」
13	茅ヶ崎市美術館	速水御舟展 9/11 - 10/17	10	速水御舟「椿図」10面(寄託作品)
14	駿府博物館	摘水軒所蔵 絵で見る江戸の博物館 10/22 - 12/5	3	岡本秋暉「月下双裏図」「波に鯉鳥図」「蝶に孔雀図」(寄託作品)
15	日本橋高島屋、京都高島屋、 大阪高島屋、横浜高島屋	没後20年 中川一政展 日本橋高島屋 3/2 - 3/21 京都高島屋 3/30 - 4/18 大阪高島屋 4/20 - 5/9 横浜高島屋 5/18 - 5/30	2	中川一政「薔薇」
16	はつかいち美術ギャラリー	高田力蔵展 3/25 - 5/10	3	高田力蔵「朝霧のシテ(パリ)」「朝霧のノートルダム」「スペイン階段(ローマ)」
計	-	-	49点	-

展覧会

1 新収蔵品展

会期：2010年4月10日(土)～5月30日(日)

種別	特集展
主催	平塚市美術館
開館時間	9:30-17:00(入場は-16:30)
休館日	月曜日
観覧料	一般 200円、高大生 100円 各減免をのぞく
開催日数	45日
入場者数	8,418人
担当	小池光理(当館学芸員)



海老原喜之助(曲馬)



展示風景



展示風景

内容

平塚市美術館では開館以来「湘南の美術・光」をテーマに、近現代の洋画・日本画・彫刻の作品を中心に収集をおこなってきました。本展では、2009年度に収集した作品をご紹介します。

日本画では、郷倉和子(ごうくらかずこ)、益井三重子(ますいみえこ)などの優れた女性作家の作品、開催した展覧会をきっかけにした山本直彰(やまもとなおあき)や、また福井江太郎(ふくいこうたろう)の斬新な作品。洋画では、近代具象画を代表する画家、海老原喜之助(えびはらきのすけ)の滞欧作、また久野

和洋(くのかずひろ)の静謐な風景画や、平野杏子(ひらのきょうこ)の大作シリーズなど。現代美術では、嶋剛(しぎごう)の表現の意味を問いかける作品。陶芸では三輪休雪(みわきゆうせつ)の現代感覚をとり入れた花器、彫刻では黒川弘毅(くろかわひろたけ)のモダンなブロンズ像など。平塚市美術館の新たな優れた収蔵作品を、ご鑑賞いただきました。

出品リスト

NO	作家名	作品名	制作年	サイズ(cm)	技法・材質
1	郷倉和子	飛鳥路の春	1999(平成11)年	77.0×143.0	彩色・紙
2	益井三重子	オランダ所見	1980(昭和55)年	192.0×138.0	彩色・紙
3	二見利節	ばら	1959(昭和34)年	45.5×38.2	油彩・キャンバス
4	嶋剛	SHONAN2	1988(昭和63)年	182.0×227.0	アクリル・キャンバス
5	嶋剛	過ぎし日々	1999(平成11)年	181.8×227.3	鉛筆、油彩・キャンバス
6	海老原喜之助	曲馬	1930(昭和5)年頃	72.8×100.2	油彩・キャンバス
7	黒川弘毅	EROS 71	2009(平成21)年	50.0×28.0×12.0	ブロンズ
8	黒川弘毅	EROS 72	2009(平成21)年	90.5×58.0×19.0	ブロンズ
9	山本直彰	IKAROS	1986(昭和61)年	162.2×130.3	彩色・紙
10	福井江太郎	集	1996(平成8)年	180.0×720.0	彩色・紙
11	山本直彰	帰還	2009(平成21)年	363.6×333.3	彩色・紙
12	山本直彰	帰還	2009(平成21)年	363.6×333.3	彩色・紙
13	山本直彰	IKAROS 901	2001(平成13)年	201.0×285.5	彩色・紙
14	久野和洋	古代の地() TARQUINIA	1989(平成元年)	130.3×145.5	油彩・キャンバス
15	久野和洋	地の風景・道のかたち	2000-2001(平成12-13)年	130.3×194.0	油彩・キャンバス
16	久野和洋	地の風景・野に咲く	1999-2000(平成11-12)年	145.5×130.3	油彩・キャンバス
17	久野和洋	地の風景・雨あがる	2005(平成17)年	145.5×145.5	油彩・キャンバス
18	久野和洋	複製画のある静物	2009(平成21)年	130.3×130.3	油彩・キャンバス
19	久野和洋	筍二個と水差し	2008(平成20)年	65.2×91.0	油彩・キャンバス
20	平野杏子	磨崖仏讃	1978(昭和53)年	170.0×300.0	油彩・キャンバス
21	平野杏子	磨崖仏讃	1978(昭和53)年	170.0×300.0	油彩・キャンバス
22	平野杏子	磨崖仏讃	1978(昭和53)年	170.0×300.0	油彩・キャンバス
23	三輪休雪(龍作)	黒の風景	1982(昭和57)年	70.5×60.5×17.0	陶磁

関連事業

事業内容	日時、場所、講師等	参加者
担当学芸員によるギャラリートーク	5月1日(土)、5月15日(土) 各回14:00～14:30 / 展示室	計22人

主な紹介記事・番組

月日	紹介内容
4月11日	「平塚市美術館で新収蔵23点展示」 読売新聞
4月23日	「新収蔵品の特集展」 湘南ジャーナル

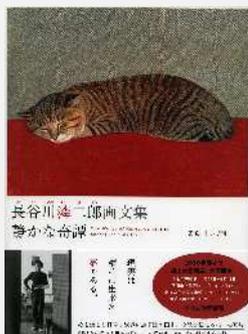
2 平明・静謐・孤高 - 長谷川湊二郎展

会期：2010年4月17日(土)～6月13日(日)

種別	企画展
主催	平塚市美術館、読売新聞、美術館連絡協議会
協賛	ライオン、清水建設、大日本印刷、神奈川中央交通株式会社
開館時間	9:30-17:00(入場は-16:30)
休館日	月曜日
観覧料	一般 800円、高大生 500円 各減免をのぞく
開催日数	51日
入場者数	25,952人
担当	土方明司(当館館長代理)



リーフレット



図録



展示風景

内容

長谷川湊二郎(はせがわりんじろう 1904-88)は戦前から戦後にかけて長く制作を続け、独自の写実表現を開拓しました。いわゆる画壇的な世界には属さず、また時々の美術の流行にも超然たる態度をとり、結果として日本の近代美術史上極めて特異な位置を占めています。平明かつ温厚な写実表現でありながら、神秘的な幻想性を帯びたその作品は、みる者に忘れがたい印象を残します。何年もかけ、納得いくまで観察しないと描かない寡作、孤高ともいえる制作態度、江戸川乱歩にも称賛された探偵小説作家としての一面、家庭環境(父・淑夫 ジャーナリストの先駆け、兄・林不忘『丹下左膳』作者、第二人は文学者)など画家湊二郎を取り巻くエピソードも多いといえます。しかし、作品発表の場が少なく、一部の識者に高い評価を受けながらも、その画業の全体像はまだまだ明確にされていません。

公立美術館として初めての回顧展となる本展は、初期から晩年の作品を網羅し、そのきわめて独創的な絵画世界を検証しました。近年、雑誌、テレビ等で幻の画家として繰り返し取り上げられ、再評価の機運が高まる長谷川湊二郎の全貌を紹介する展覧会となりました。

関連事業

事業名	日時、場所、講師等	参加者
講演会「長谷川湊二郎の魅力」	4月29日(木・祝) 14:00～15:30 / ミュージアムホール 講演者 原田光氏(岩手県立美術館館長)	150人
担当学芸員によるギャラリートーク	4月24日(土)、5月3日(月・祝)、5月22日(土)、 6月5日(土) 各回 14:00～14:40 / 展示室	計 240人

出品リスト

NO	作品名	制作年	サイズ(cm)	技法・材質	所蔵先
1	冬近き日の風景	1918年	23.6×32.6	油彩・キャンバスボード	北海道立函館美術館
2	初冬の森の斜陽	1919年	23.5×32.9	油彩・板	北海道立函館美術館
3	初雪の日の午後	1919年	23.5×33.0	油彩・キャンバスボード	
4	ハリストス正教会への道	1923年	45.0×53.0	油彩・キャンバス	おかざき世界子ども美術博物館
5	函館風景	1923年	45.5×44.5	油彩・キャンバス	宮城県美術館
6	ハリストス正教会	1923年	38.8×53.0	油彩・キャンバス	北海道立函館美術館
7	室内	1920年代	53.0×45.5	油彩・キャンバス	
8	ある男の顔	1923年	45.5×33.5	油彩・キャンバス	
9	静物	1923年	45.5×38.0	油彩・キャンバス	宮城県美術館
10	マンドリン	1923年	45.2×33.1	油彩・キャンバス	北海道立函館美術館
11	私達の部屋	1923年	43.0×53.0	油彩・キャンバス	北海道立函館美術館
12	図書館 於函館	1926年	45.0×52.5	油彩・キャンバス	
13	函館風景	1927年	38.0×45.0	油彩・キャンバス	
14	窓とかまきり	1930年	54.0×39.5	油彩・キャンバス	
15	猫と毛糸	1930年	41.0×53.0	油彩・キャンバス	
16	兎	1930年	31.5×40.2	油彩・キャンバス	北海道立函館美術館
17	静物	1931年	22.0×27.0	油彩・キャンバス	
18	荻窪風景	1931年	32.0×41.0	油彩・キャンバス	
19	並木のバリ	1931年	21.3×14.4	油彩・板	榊田達雄・俊子氏
20	マロニエと門	1931年	18.0×12.0	油彩・キャンバス	
21	巴里郊外	1931年	41.8×32.0	油彩・キャンバス	
22	巴里の家 廣告塔	1931年	19.6×27.1	油彩・板	北海道立函館美術館
23	門(巴里風景)	1931年	32.5×38.0	油彩・キャンバスボード	
24	道(巴里郊外)	1931年	46.0×54.7	油彩・キャンバス	宮城県美術館
25	モンルージュ附近 デブシーの馬車	1932年	24.1×41.0	油彩・キャンバス	北海道立函館美術館
26	雪の荻窪風景	1932年	15.0×22.0	油彩・キャンバス	
27	久我山風景	1932年	27.0×24.0	油彩・キャンバス	
28	庭の森	不詳	31.7×25.0	油彩・キャンバス	至峰堂画廊
29	木々	1932年	13.5×26.7	油彩・板	
30	風景	1932年	24.5×34.5	油彩・キャンバスボード	
31	風景	1930年代	24.0×33.5	油彩・キャンバス	
32	武蔵野風景	1933年	9.0×26.0	油彩・板	
33	秋景 国立風景	1933年	24.5×33.5	油彩・キャンバス	
34	アネモネ	1934年	22.5×27.0	油彩・板	
35	時計のある門(東京麻布天文台)	1935年	40.5×53.0	油彩・キャンバス	
36	晩秋風景	1935年	32.0×41.0	油彩・キャンバス	
37	池畔(京都市下鴨神社境内)	1936年	18.7×11.8	油彩・キャンバス板貼り	
38	南禅寺風景	1936年	22.0×8.0	油彩・キャンバス板貼り	
39	冬 京都銀閣寺附近	1937年	22.0×14.0	油彩・キャンバス	
40	正倉院附近	1937年	19.0×24.5	油彩・キャンバス	
41	静物(桃とパイプ)	不詳	21.6×26.6	油彩・キャンバスボード	
42	バラ	1938年	32.7×24.2	油彩・キャンバス	宮城県美術館
43	代々木風景	1938年	34.0×53.0	油彩・キャンバス	
44	横浜港(6月)	1939年	32.0×41.0	油彩・キャンバス	
45	段々畑	1940年代	20.0×20.5	油彩・キャンバス板貼り	
46	ガソリンスタンド	1940年	53.0×41.0	油彩・キャンバス	
47	貝	1940年	27.5×41.0	油彩・キャンバス	小さな栗の木美術館
48	冬山 伊豆仁科	1940年	26.5×41.0	油彩・キャンバスボード	
49	岩(仁科)	1940年	15.2×24.0	油彩・キャンバス板貼り	
50	早春の岬(伊東付近)	1941年	26.7×40.8	油彩・キャンバス	宮城県美術館
51	鳥	不詳	27.0×41.0	油彩・キャンバス	
52	芭蕉の庭	1947年	91.5×73.5	油彩・キャンバス	おかざき世界子ども美術博物館
53	食後の庭	1947年	73.0×53.5	油彩・キャンバス	
54	静物	1952年	17.0×33.0	油彩・キャンバス	
55	荻窪風景	1953年	46.0×32.0	油彩・キャンバス	
56	竹林	1953年	31.5×41.0	油彩・キャンバス	
57	花	1953年	41.0×32.0	油彩・キャンバス	
58	桃	1954年	23.0×33.0	油彩・キャンバス	
59	花	1955年	41.0×32.0	油彩・キャンバス	

60	水蜜桃	1956年	22.0×27.0	油彩・キャンバス	
61	アスチルベ	1956年	41.0×27.5	油彩・キャンバス	
62	早春	1958年	38.0×46.0	油彩・キャンバス	
63	葡萄	1960年	28.0×41.0	油彩・キャンバス	
64	御濠端(千鳥ヶ淵)	1961年	31.9×41.0	油彩・キャンバス	
65	紫蘇の實	1962年	53.0×41.0	油彩・キャンバス	至峰堂画廊
66	桐の花	1963年	27.2×19.5	油彩・キャンバスボード	
67	七月(梅雨明)	1963年	41.0×32.0	油彩・キャンバス	
68	葡萄	1963年	41.3×32.0	油彩・キャンバス	
69	赤い薔薇	1964年	33.0×24.5	油彩・キャンバス	
70	茄子其他	1964年	46.0×53.0	油彩・キャンバス	
71	箱	1965年	27.0×41.0	油彩・キャンバス	
72	薔薇	1965年	41.0×32.0	油彩・キャンバス	
73	水中花	1965年	45.0×38.0	油彩・キャンバス	
74	木の実	1966年	27.3×22.1	油彩・キャンバス	
75	猫	1966年	30.9×40.9	油彩・キャンバス	宮城県美術館
76	りんご	1967年	21.4×33.4	油彩・キャンバス	
77	花	1968年	41.0×27.0	油彩・キャンバス	
78	母子草	1970年	41.0×32.0	油彩・キャンバス	
79	静物	1970年	32.5×42.0	油彩・キャンバス	
80	洋燈のある静物	1970年	53.0×33.0	油彩・キャンバス	
81	柚子の木	1970-83	33.5×21.5	油彩・キャンバス	
82	柚子の木	1970年	41.3×32.0	油彩・キャンバス	橋本つた子氏
83	風景	1970年代	33.5×24.0	油彩・キャンバス	
84	紙袋	1970年	38.0×45.5	油彩・キャンバス	
85	春	1971年	45.0×38.0	油彩・キャンバス	
86	六月の森	1971年	32.0×41.0	油彩・キャンバス	
87	魚	1971年	41.0×32.0	油彩・キャンバス	
88	静物	1971年	24.0×34.0	油彩・キャンバス	
89	栗	1972年	26.0×41.0	油彩・キャンバス	
90	薔薇	1972年	33.5×24.2	油彩・キャンバス	
91	乾魚	1972年	24.0×33.0	油彩・キャンバス	
92	箱	1972年	32.0×41.0	油彩・キャンバス	
93	枇杷	1973年	33.0×24.0	油彩・キャンバス	
94	枝	1974年	21.0×33.0	油彩・キャンバス	
95	洋梨と林檎と瓶	1975年	22.0×27.0	油彩・キャンバス	
96	人形のある静物	1975年	41.0×53.0	油彩・キャンバス	
97	静物	1970年代	41.0×52.0	油彩・キャンバス	
98	入れ物	1975年	31.0×41.0	油彩・キャンバス	
99	茶器	1976年	24.3×33.3	油彩・キャンバス	
100	蔬菜	1976年	32.0×41.0	油彩・キャンバス	
101	ペルシャ陶器と貝殻	1977年	15.5×23.8	油彩・キャンバス	北海道立函館美術館
102	紫陽花	1977年	33.5×24.5	油彩・キャンバス	
103	静物	1979年頃	27.0×45.5	油彩・キャンバス	
104	玩具と絵本	1979年	41.0×53.0	油彩・キャンバス	長谷川光児氏
105	蜜柑の静物	1979年	38.2×45.5	油彩・キャンバス	
106	木と鳥	1979年	33.8×21.3	油彩・キャンバス	至峰堂画廊
107	静物	1980年代	32.0×41.0	油彩・キャンバス	
108	冬の太陽	1980年	33.2×21.4	油彩・キャンバス	北海道立函館美術館
109	アイスクリーム	1981年	33.2×52.8	油彩・キャンバス	北海道立函館美術館
110	風景	1981年	23.0×15.5	油彩・キャンバス	
111	西瓜	1981年	32.0×41.0	油彩・キャンバス	
112	枯れた鬼灯	1982年	11.7×33.2	油彩・キャンバス	北海道立函館美術館
113	キャラメル	1980年代	13.9×17.9	油彩・キャンバス	
114	お正月の道具	1982年	45.0×52.3	油彩・キャンバス	
115	葡萄	1982年	31.8×40.9	油彩・キャンバス	
116	林檎	1983年	24.0×33.0	油彩・キャンバス	長岡秀成・垂矢子氏
117	葡萄と無花果	1983年	27.5×34.5	油彩・キャンバス	至峰堂画廊
118	アイスクリーム	1983年	24.5×41.0	油彩・キャンバス	
119	梅雨雲り	1984年	41.0×32.0	油彩・キャンバス	
120	月桂樹の葉	1985年	27.0×41.0	油彩・キャンバス	
121	薔薇	1985年	33.5×24.5	油彩・キャンバス	
122	梨・茶碗	1985年	22.0×27.5	油彩・キャンバス	

123	風景	制作年不詳	22.0×32.0	油彩・キャンバス	
124	こいのぼり	1986年頃	32.0×41.0	油彩・キャンバス	
D-1	裸婦 巴里にて	1931年頃	20.0×18.0	鉛筆・紙	
D-2	巴里にて	1931年	15.0×22.5	鉛筆・紙	
D-3	巴里	1931年	31.0×22.5	鉛筆・紙	
D-4	巴里	1931年	22.5×30.8	鉛筆・紙	
D-5	巴里	1931年	30.5×22.5	鉛筆・紙	
D-6	風景	1930-40年代	左 22.7×14.7 右 22.7×14.4	鉛筆、コンテ・紙	北海道立函館美術館
D-7	やぐらのある風景	1930-40年代	21.3×27.4	パステル・紙	北海道立函館美術館
D-8	素描(猫)	不詳	40.5×47.5	鉛筆・紙	

展覧会図録『長谷川湊二郎画文集 静かな奇譚』

発行月	2010年3月
価格	3000円
体裁	26.4cm×19.5cm、199頁
監修	土方明司(当館館長代理)
テキスト	長谷川湊二郎「写生を見る人々」「タローの思い出」 大下智一「内なるリアリズム - 長谷川湊二郎の画業と生涯」 土方明司「長谷川湊二郎の絵画世界」 有川幾夫「二匹の猫」 加野恵子「武蔵野を描く画家」 濱本聡「リンジローの小さな宇宙」
作品図版	129点
資料等	略年譜、文献・著作目録、掲載作品目録
発行	株式会社求龍堂

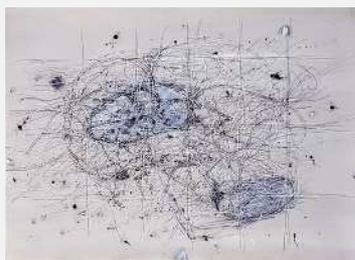
主な紹介記事・番組

月日	紹介内容
4月	「平明・静謐・孤高 - 長谷川湊二郎展」 FUJI-TV ART NET
4月15日	「独創的な写実表現 長谷川湊二郎展」 タウンニュース1148号
4月16日	「幻の画家 長谷川湊二郎展 市美術館で17日から」 湘南ホームジャーナル
4月18日	「「孤高の写実画家」全容を 平塚市美術館 長谷川湊二郎展始まる」 東京新聞
4月21日	「幻の画家 130作品で 平塚市美術館 長谷川湊二郎展」 神奈川新聞
4月23日	「長谷川湊二郎展 平塚市美術館 」 はろど・わーど
4月	「平明・静謐・孤高 - 長谷川湊二郎展」 アートジェーン
4月27日	「長谷川湊二郎展 - 平明・静謐・孤高 - 」 ぎやらりいモール 読売新聞
4月29日	「写実の中に非現実 長谷川湊二郎回顧展」 読売新聞
5月10日	小栗康平「言いたい放談 事業仕分けで思うこと」 東京新聞
5月16日	宮田徹也「平明・静謐・孤高 - 長谷川湊二郎展」 新かながわ
5月21日	岸桂子「ゆったりアート 描く対象 とことん観察」 毎日新聞
5月26日	洪沢和彦「長谷川湊二郎の作品が130点 止まった時間 静寂の和み」 産経新聞
5月26日	田中三蔵「長谷川湊二郎展 孤高の文学性」 朝日新聞
5月30日	新日曜美術館「現実には精巧に造られた夢である 画家・長谷川湊二郎」
5月30日	森村泰昌「長谷川湊二郎画文集 静かな奇譚」 朝日新聞
7月	猪本典子「長谷川湊二郎の猫」 PRECIOUS

3 黒崎俊雄展 UGOUGO

会期：2010年6月26日(土)～8月29日(日)

種別	特集展
主催	平塚市美術館
観覧料	一般200円、高大生100円 各減免をのぞく
開館時間	9:30-17:00(入場は-16:30) 世界絵本原画展開催期間中は、開館時間を1時間延長。
休館日	月曜日 7月19日(月・祝)は開館し翌日休館。
開催日数	56日
入場者数	10,986人
担当	江口恒明(当館学芸員)



《無題》 (インク、グアッシュ・紙)



ワークシート



展示風景

内容

本展は、黒崎俊雄(くろさきとしお 1946-)の近作を中心に展覧しました。黒崎は、1971年に東京藝術大学美術学部油画専攻を卒業し、現在、神奈川県葉山町で制作を続けている造形作家です。その作品は、初期のモノクロや落ち着いた色彩の抽象表現から、近年の鮮やかな色彩と動物や植物のイメージによる生命感あふれる表現へと様々な変化を遂げてきました。

展示では、まずイタリア留学時代の作品を紹介しました。初期の作品はインクで細かな線を丹念に描き、やがて画面を埋め尽くすというものです。90年代になると、絵具を重ね塗りした上から、動物、樹木、人間をモチーフに線を刻む手法を用いたり、童画風の形を描くなど、それまでの作風から大きな転換をはかることとなりました。近年は、同じサイズの紙にネコを描いて壁一面に並べたり、新聞紙をつなぎあわせた大作や、スチレンボードのピースを配したインスタレーションなど、力強くのびやかで遊び心を刺激する作品を制作しています。こうした90年代以降の近作を展示の中心としました。このほか、小中高校生と共同でインスタレーション制作を3回おこない、徐々にできあがる作品のコーナーを展示室に設けました。抽象的な作風で絵画のもつ根源的な問題に取り組んだ表現から、親しみやすさをあわせ持つ近年の作品まで、多彩な表現を紹介しました。

出品リスト

NO	作品名	制作年	サイズ(cm)	技法・材質
1	無題	1978年	50.0×70.0	紙・インク、グアッシュ
2	無題	1979年	100.0×70.0	紙・インク
3	無題	1979年	100.0×70.0	紙・インク、グアッシュ
4	無題	1979年	100.0×70.0	キャンバス・油彩
5	無題	1979年	57.0×76.6	紙・インク、グアッシュ
6	無題	1979年	57.0×76.6	紙・インク
7	無題	1980年	54.4×72.6	紙・インク、グアッシュ
8	無題	1984年	70.0×100.0	紙・インク、グアッシュ
9	無題	1984年	76.7×57.0	紙・インク、グアッシュ
10	無題	1984年	57.0×76.7	紙・インク、グアッシュ
11	無題	2010年	280.0×539.0	洋紙・アクリル

12	無題	2009年		スチレンボード・アクリル
13	無題	2010年	210.0×527.0	キャンバス・アクリル
14	無題	2010年	210.0×525.0	キャンバス・アクリル
15	無題	2008年	210.0×480.0	キャンバス・アクリル
16	無題	2008年	225.0×200.0	キャンバス・アクリル
17	無題	2008年	200.0×250.0	キャンバス・アクリル
18	無題	2007年	各 20.5×34.0	洋紙・アクリル
19	無題	2007年	各 24.5×42.5	洋紙・アクリル
20	無題	2004年	210.0×470.0	新聞紙・アクリル
21	無題	2007年	210.0×318.0	新聞紙・アクリル
22	無題	2010年	210.0×470.0	新聞紙・アクリル
23	無題	2007年	210.0×397.0	新聞紙・アクリル
24	無題	2010年	各 60.0×180.0×86.0	スチレンボード・アクリル

関連事業

共同制作体験 アーティストと一緒に作品をつくって展示室にかざろう！

日時・対象 7月11日(日) 13:30~16:30 高校生
7月17日(土) 13:30~16:30 中学生
7月25日(日) 13:30~16:30 小学生

講師 黒崎俊雄 氏(造形作家)

場所 アトリエ

参加費 無料

参加人数 高校生:19人 中学生:11人 小学生:14人 計44人



実施風景

作家によるワークショップ

第1回：アートな夏のTシャツ作り

日時 7月31日(土) 10:00~12:00
講師 黒崎俊雄 氏(造形作家)
場所 アトリエ
定員・対象 高校生~一般
参加人数 15人

第2回：Tシャツに描こう！夏休みのアート体験

日時 7月31日(土) 14:00~16:00
講師 黒崎俊雄 氏(造形作家)
場所 アトリエ
定員・対象 小学校4年生~中学生
参加人数 7人

作家によるギャラリートーク

8月22日(日) 14:00~15:00/展示室 参加人数90人

主な紹介記事・番組

月日	紹介内容
6月10日	「黒崎俊雄展 UGUGO」 タウンニュース 1156号
6月20日	「初期の作品から近年の作品まで 平塚美術館で黒崎俊雄展」 神静民報
7月14日	「鮮やかに生命感 造形作家展 参加企画も」 神奈川新聞

4 夏休み特別企画 世界の絵本がやってきた ブラティスラヴァ世界絵本原画展 特別展示 チェコの人形劇

会期：2010年7月17日(土)~8月29日(日)

種別	企画展
主催	平塚市美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会
後援	チェコ大使館、チェコセンター、スロヴァキア大使館
協賛	ライオン、清水建設、大日本印刷、神奈川中央交通株式会社
協力	スロヴァキア国際児童芸術館(BIBIANA)、(社)日本国際図書評議会(JBBY)
開館時間	9:30-18:00(入場は-17:30) 開催期間中、開館時間を1時間延長。
休館日	月曜日 7月19日(月・祝)は開館し翌日休館。
観覧料	一般 800円、高大生 500円 各減免をのぞく
開催日数	38日
入場者数	13,589人
担当	安部沙耶香(当館学芸員)



ワークシート



図録



展示風景

内容

ブラティスラヴァ世界絵本原画展(略称BIB)は、スロヴァキア共和国の首都・ブラティスラヴァでおこなわれる世界最大規模の絵本原画展として知られています。1967年、当時のチェコスロヴァキアで第1回展が開催されて以来、2年ごとに開かれており、2009年秋に22回目を迎えました。世界各国から国内選考を経て出品された原画が一堂に展示されます。ベテラン作家が出品しており、その個性の競演を楽しむ機会といえます。

本展では、BIB2009年展のグランプリをはじめとする各国の受賞作品と日本人作家による出品作品を中心に展覧しました。さらに、BIB2009年展に出品された世界各国の絵本も併せて展示しました。

また、特別展示として、スロヴァキア共和国の隣国・チェコ共和国の人形劇を紹介しました。チェコの人形劇は「三国志」を手がけた川本喜八郎をはじめ日本の人形作家にも多大な影響を与えています。今回、フルジム人形劇博物館の協力を得て、家庭用人形劇場8台及び人形約170体を時代順に展示し、チェコの人形劇の歴史をご紹介します。また、川本氏の作品と彼が師事したイジー・トゥルンカの人形も展示しました。本邦初公開の貴重なチェコの人形をご鑑賞いただきました。

BIB 1部・2部リスト

NO	作家名	作品名	原画制作年	技法・材質	所蔵先
1-1~12	タシエス	まいごの幼子	2008年	紙、ガッシュ、墨	作家
2-1~5	パーヴェル・タタルニコフ	アーサー王物語	2006/2007年	紙、水彩	作家
3-1~4	フランチェク・スカーラ	カエルの城	2008年	混合技法、コラージュ	作家
3-5~8	フランチェク・スカーラ	ツイレクとリーダのぼうけん	2007年	写真、インク、鉛筆	作家
4-1~7	ビート・グロブラー	色！いろいろ！	2008年	紙、水彩	作家
5-1~4	マルチナ・マトロヴィチョヴァー	トレーシーの虎	2009年	紙、コラージュ、アクリル絵具	作家
5-5~7	マルチナ・マトロヴィチョヴァー	ぶきょうな父さん	2007年	紙、コラージュ、アクリル絵具	作家
6-1~10	ボリス・ザビローヒン	ロシアの昔話集	2008年	紙、リトグラフ	作家
7-1~3	アンヌ・ベルティエ	文字を描いて	2004年	紙、鉛筆、水彩	作家
7-4~8	アンヌ・ベルティエ	文字を作って	2004年	紙、鉛筆、水彩	作家
8-1~14	智内 兄助	ぼくがうまれた音	2007年	シナベニア板、アクリル絵具、モデリングペースト、ジェルメデューム、胡粉、ジェッツ	今治城
9-1~5	アン・カトリン・ラブ	ダニのつぶやき	2008年	紙、インク	作家
10-1~6	ヤナ・キセロヴァー・シチェコヴァー	天使よ、私の守護天使よ	2008年	布、インク、テンペラ	作家
11-1~5	ファビアン・ネグリン	千の星とひとつの夜	2009年	紙、インク、コンピューター	作家
11-6	ファビアン・ネグリン	愛が君を待ちのぞむ	2008年	紙、アクリル絵具	作家
12-1~9	あべ 弘士	ねこのおいしゃさん	2008年	紙、水彩、パステル	作家
13-1~9	荒井 良二	えほんのこども	2008年	アクリル、グアッシュ、色鉛筆他、コラージュ	作家
14-1~8	こしだ ミカ	ほなまた	2008年	紙、混合技法	作家
15-1~9	ささめや ゆき	だんまり	2007年	紙、インク、アクリル絵具	作家
16-1~8	スズキ コージ	とんがとびんがのプレゼント	2008年	紙、アクリル絵具、コラージュ	作家
17-1~8	高畠 純	どうするどうするあなのなか	2008年	紙、グアッシュ、サインペン	作家
18-1~9	つかさ おさむ	おばあものがたり	2008年	アクリル板、油彩、アクリル絵具、麻紙貼り	作家
19-1~9	山口 マオ	わにわにのおでかけ	2004年	越前和紙、木版、グアッシュ	作家

BIB 3部リスト

NO	作品名	制作年	制作者	所蔵先
20	アントニン・リビシュによる家庭用劇場の糸操り人形	1896年	デザイン、制作：アントニン・リビシュ	フルジム人形劇博物館
21	ラディスラフ・シャロウンによる人形セット	(頭部)1912-14年 (胴体部)1920年代 初頭	制作：ラディスラフ・シャロウン 制作：ヤンとエリシュカ・クラールズ工房	フルジム人形劇博物館
22	家庭用劇場の人形	1900 - 25年	制作者不明	フルジム人形劇博物館
23	ヴォイチェフ・コホウトの家庭用劇場人形	20世紀初頭	制作者不明	フルジム人形劇博物館
24	家庭用劇場の人形セット	不明	制作者不明	フルジム人形劇博物館
25	アレシュ人形	1912 - 1950年代	デザイン：ミコラーシュ・アレシュ	フルジム人形劇博物館
26	ルドルフ・ハヴァラスによる家庭用劇場の人形	1920年代	制作：ルドルフ・ハヴァラス	フルジム人形劇博物館
27	ヤン・ヴァヴジーク・リーシュによる操り人形	(頭部)1925年	制作：ヤン・ヴァヴジーク・リーシュ	フルジム人形劇博物館
28	イジー・フデチェックによる家庭用劇場の人形	1934-38年	制作：イジー・フデチェック	フルジム人形劇博物館

29	ルドルフ・ジーハによる家庭用劇場の人形	1940年代	デザイン:ルドルフ・ルジーハ	フルジム人形劇博物館
30	カレル・クリーマによる家庭用劇場の人形	1940年代 - 50年代	デザイン、制作:カレル・クリーマ	フルジム人形劇博物館
31	トファ社製人形	1946年		フルジム人形劇博物館
32	ズデニェック・ポドフルスキーによる小さな家庭用劇場の人形	1948 - 60年	デザイン:ズデニェック・ポドフルスキー	フルジム人形劇博物館
33	ズデニェック・ポドフルスキーによる人形の連作	1950年代	デザイン:ズデニェック・ポドフルスキー	フルジム人形劇博物館
34	ルボル・シュヴォルチークによる人形	20世紀後半	デザイン:ルボル・シュヴォルチーク	フルジム人形劇博物館
35	シュタファーの劇場	1923年	デザイン、制作:カレル・シュタファー	フルジム人形劇博物館
36	シュトルヒ社製チェコ人形劇場	1926年	デザイン、制作:ヴィート・スカーラ	フルジム人形劇博物館
37	ハヴァラスの劇場	1920年代	制作者不明	フルジム人形劇博物館
38	マルティーネクの劇場	20世紀前半	制作者不明	フルジム人形劇博物館
39	F. フリスティアンによる正面舞台のある劇場	1930年代	デザイン、制作:フランティシェック・フリスティアン	フルジム人形劇博物館
40	シュヴァーヴの劇場	1946年	デザイン、制作:ヤロスラフ・シュヴァーヴ	フルジム人形劇博物館
41	バルトシュの劇場	1947年	デザイン、制作:スヴァトブルク・バルトシュ	フルジム人形劇博物館
42	カサルの劇場と装飾一式	1990年代	デザイン、製作:ミロシュ・カサル	フルジム人形劇博物館
43	組立て式人形劇場	1960年	デザイン:ヘレナ・ロキトベ	加藤暁子氏
44-1	カシュパーレック	20世紀初頭	制作者不明	フルジム人形劇博物館
44-2	カシュパーレック	20世紀前半	制作者不明	フルジム人形劇博物館
44-3	カシュパーレック	1930年代-60年代	制作者不明	フルジム人形劇博物館
44-4	カシュパーレック	1950年代-60年代	制作者不明	フルジム人形劇博物館
45	スベイブルとフルヴィーネク	1976年(複製)		フルジム人形劇博物館
46	男の頭部(取り外しできるタブレット)	1949年	イジー・トゥルンカ	フルジム人形劇博物館
47	御者のパベット	1949年	イジー・トゥルンカ	フルジム人形劇博物館
48	戦士のパベット	1953年	イジー・トゥルンカ	フルジム人形劇博物館
49	妖精たち	1959年	イジー・トゥルンカ	フルジム人形劇博物館
50	大天使ガブリエルの人形の頭部	1964年	イジー・トゥルンカ	フルジム人形劇博物館
52	いばら姫	1990年	川本喜八郎	飯田市川本喜八郎人形美術館
53	呂布奉先(りょふほうせん)	1982-84年	川本喜八郎	飯田市川本喜八郎人形美術館

関連事業

講演会

日時 7月19日(月・祝) 14:00~15:00
 講師 智内兄助氏(金牌受賞作家)
 場所 ミュージアムホール
 参加人数 70人

系繰り人形のデモンストレーション

日時 7月31日(土)、8月1日(日)、7日(土)、8日(日)
 各日2回開催 14:00~14:30・15:00~15:30
 講師 荒川純子氏(人形劇団ブーク)
 場所 展示室I
 参加人数 計787人



実施風景

絵本のお話し会

日時 7月19日(月・祝)、25日(日)、8月22日(日)、28日(土) 11:00~11:30
講師 平塚市内のボランティアの方々
場所 展示室Ⅰ
参加人数 計160人

担当学芸員によるギャラリートーク

日時 7月25日(日)、8月14日(土) 各回14:00~14:30
場所 展示室Ⅰ
参加人数 計35人

ワークショップ 「ベタベタ光の水族館」

日時 7月23日(金)、30日(金) 各回10:00~15:00
場所 アトリエ
参加人数 計15人

「作って遊ぼうわくわくらんど」

日時 7月24日(土)、8月21日(土) 各回13:30~15:00
場所 アトリエ
参加人数 計98人

展覧会図録 『世界の絵本がやってきた ブラティスラヴァ世界絵本原画展』

発行年月 2010年
価格 2000円
体裁 30.0cm×18.2cm、95頁
テキスト BIB2009 審査をめぐって 柴田勢津子/フルジムの人形劇博物館 アレナ・エクスナロヴァー/
チェコの実験用劇場と操り人形 富田智子
図版 215点
資料等 出品作家/略歴出品/作品リスト
制作 美術出版社/デザインセンター
発行 平塚市美術館・美術館連絡協議会

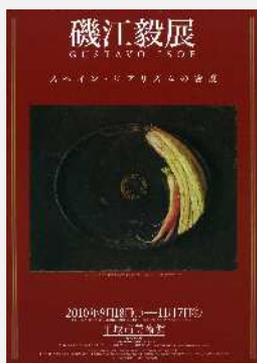
主な紹介記事・番組

月日	紹介内容
5月31日	「人形劇にもスポット ブラティスラヴァ絵本原画展」 読売新聞
5月	「世界の絵本がやってきた ブラティスラヴァ世界絵本原画展」 アートインデックス
6月25日	「ブラティスラヴァ世界絵本原画展 7月17日から開催」 湘南ホームジャーナル
7月14日	「ブラティスラヴァ世界絵本原画展 7月17日から8月29日まで」 神静民報
7月18日	「世界の絵本原画を紹介 平塚市美術館で160点」 読売新聞
7月	「世界の絵本がやってきた ブラティスラヴァ世界絵本原画展」 アートジェーン
8月11日	「ブラティスラヴァ世界絵本原画展 カシユパーレック」 読売新聞

5 スペイン・リアリズムの密度 磯江毅展

会期：2010年9月18日(土)～11月7日(日)

種別	特集展
主催	平塚市美術館
開館時間	9:30-17:00(入場は-16:30)
休館日	月曜日 9月20日と10月11日は開館し翌日休館。
観覧料	一般200円、高大生100円 各減免をのぞく
開催日数	44日
入場者数	9,929人
担当	小池光理(当館学芸員)



リーフレット



展示風景



展示風景

出品リスト

NO	作品名	制作年	サイズ(cm)	技法・材質
1	サンチェス・コタンの静物(盆の上のあざみとラディッシュ)	2000-01(平12-13)年	65.0×81.0	油彩・キャンバス
2	人物	1982(昭57)年	53.0×45.5	油彩・板
3	子供	1986(昭61)年	73.0×60.0	鉛筆、色鉛筆、水彩・紙
4	鳥の巣	1989(平元)年	50.0×49.5	鉛筆、水彩・紙
5	静物	1986(昭61)年	65.0×81.0	油彩・板
6	窓辺の出来事	1987(昭62)年	73.0×116.0	鉛筆、水彩・紙
7	静物(赤い筒と葡萄と貝殻)	1987(昭62)年	60.0×73.0	油彩・板
8	静物	1986(昭61)年	33.0×41.0	油彩・板
9	ざくら	1991(平3)年	35.0×35.0	油彩・キャンバス
10	静物(板の上の葡萄と林檎)	1989(平元)年	46.0×55.0	油彩・板
11	静物(カリフラワーとカーテンのある静物)	1988(昭63)年	65.0×81.0	油彩・板
12	静物(パンと瓶のある静物)	1990(平2)年	65.0×81.0	油彩・キャンバス
13	静物(籠に葡萄)	1989(平元)年	38.0×55.0	油彩・板
14	静物(柘榴と葡萄とスプーン)	1994(平6)年	60.0×65.0	油彩・板
15	静物(棚の上のパンと瓶のある静物)	1991(平3)年	130.5×97.0	油彩・キャンバス
16	静物(板の上の葡萄と4つの柘榴)	1992(平4)年	60.0×64.5	油彩・板
17	白いセーターの少女坐像	1989-90(平元-2)年	80.5×110.0	油彩・キャンバス
18	静物	1992(平4)年	100.0×100.0	ジェッソ、鉛筆、色鉛筆、水彩・紙
19	静物(盆の上の葡萄とパン)	1993(平5)年	65.0×73.0	油彩・板
20	静物(棚の中のカリフラワーと瓶のある静物)	1992(平4)年	146.0×93.0	油彩・キャンバス
21	静物(棚の中のカリフラワーのある静物)	1991(平3)年	116.0×81.0	鉛筆、水彩・紙
22	バルマヨール湖	1994(平6)年	79.0×110.0	油彩・板
23	静物(盆の上の鶏)	1995(平7)年	60.0×65.0	油彩・板
24	蜂の巣	1996(平8)年	45.1×53.0	油彩・板
25	鳥の巣	1995(平7)年	50.0×61.0	油彩・板
26	静物	1993(平5)年	41.0×46.0	ジェッソ、鉛筆、水彩・紙
27	静物(紙に包まれた玉蜀黍と柘榴)	1991(平3)年	60.0×65.0	鉛筆、水彩・紙
28	静物(新聞に包まれた葡萄)	1992(平4)年	31.0×37.5	ジェッソ、鉛筆、水彩・紙

29	ORCHIDEE	2002(平 14)年	38.0×33.0	ジェッソ、鉛筆、水彩・板
30	蘭	1997(平 9)年	30.0×36.0	鉛筆、水彩・紙
31	Phalaenopsis	2003(平 15)年	40.0×29.5	鉛筆・紙
32	深い睡眠	1994-95(平 6-7)年	100.0×182.0	鉛筆、水彩、アクリル、墨・紙
33	新聞紙の上の裸婦	1993-94(平 5-6)年	150.0×182.0	ジェッソ、鉛筆、水彩・紙
34	葡萄	1998(平 10)年	65.0×38.0	油彩・板
35	華(薔薇)	1996(平 8)年	46.0×30.0	油彩・板
36	静物	1996-97(平 8-9)年	35.0×46.0	油彩・板
37	地の音	1999(平 11)年	130.0×97.0	鉛筆、水彩、アクリル、墨・紙
38	静物(カップとロザリオ)	1997(平 9)年	54.5×73.0	ジェッソ、鉛筆、水彩・板
39	シャコ	1999(平 11)年	55.5×65.0	鉛筆、水彩・紙
40	林檎とブリキの油壺のある静物	2001(平 13)年	38.0×46.0	油彩・板
41	カルパドス・ムーラン 1920 と 18 世紀タラペラ焼	1999-2000(平 11-12)年	54.2×61.1	油彩・板
42	古い薬瓶とマルメロの静物	2002(平 14)年	48.8×58.8	油彩・板
43	薔薇と緑青	2003(平 15)年	27.0×32.0	油彩・板
44	薔薇と緑青	2002(平 14)年	27.0×32.0	油彩・板
45	古酒と葡萄の入った 17 世紀タラペラ焼	2000(平 12)年	54.0×61.0	油彩・板
46	17 世紀タラペラ焼と柘榴、薬瓶等のある静物	2001(平 13)年	50.0×58.0	油彩・板
47	古酒と搾り鉢	2005(平 17)年	56.5×73.0	油彩・板
48	古酒のある静物	2005-06(平 17-18)年	55.0×68.5	油彩・板
49	横たわる女(未完)	2003(平 15)年～	122.0×91.0	油彩・キャンパス
50	マルメロ	2004(平 16)年	46.0×55.0	鉛筆・紙
51	マルメロ	2004-05(平 16-17)年	53.7×61.0	油彩・キャンパス
52	マルメロ	2005-06(平 17-18)年	56.0×68.5	鉛筆・紙
53	三つのマルメロ	2004(平 16)年	50.0×62.2	鉛筆・紙
54	鮭“高橋由一へのオマージュ”	2003(平 15)年	122.0×65.0	油彩・板
55	パニータス (闘病)	2006-07(平 18-19)年	123.0×91.5	油彩・板
56	鯛	2007(平 19)年	41.0×53.0	ジェッソ、鉛筆、水彩・板

内容

透徹した描写力を持ち、現代リアリズム表現を追究した画家、磯江毅(いそえつよし 1954-2007)の作品を、初めて公立美術館にてご紹介しました。

磯江は大阪に生まれ、1974年、西洋美術を本格的に学ぼうと19才でスペインに渡ります。王立美術学校でデッサンの基礎を学び、プラド美術館に通って、デューラーやフランドル派の画家たちの名画の模写に没頭しました。マドリッドは、1970年頃から新たなリアリズム表現を求める画家の活動の中心地となっており、磯江は自らを「GUSTAVO ISOE」(グスタボ・イソエ)と名乗って、アントニオ・ロペス・ガルシアといった画家たちと交流し、80年代にはその運動を担う一人として活躍していきます。

存在の実感 リアリティをつかんで平面上に写し取るリアリズム表現は、伝統的な西洋美術の根幹をなすものであり、20年以上をスペインに暮らして、それを体得した磯江の作品からは、事物の発するエネルギーやそれを取り巻く空間そのものささ確固として感じることができます。「リアリズム絵画とは、実体とはフィジカルなものだけど、徹底した描写によってメタフィジカルな世界が見えてくるのを待つ哲学です」という磯江の言葉どおり、個人の情感や主観を排して描写に徹した画面からは、静謐で孤高な精神世界が現出しています。

1996年からは日本にもアトリエを構えて、自分の学んだリアリズム表現を伝えたいとしていた磯江ですが、2007年に53才の若さで急逝しました。作品の完成に長い時間がかかることもあり、寡作な作家の活動の成果を目にする機会は、これまであまりありませんでした。この展覧会では作品56点により、磯江が極めたその表現世界を展覧しました。

関連事業

事業内容	日時、場所、講師等	参加者
担当学芸員によるギャラリートーク	10月10日(日)、10月24日(日) 各回14:00～14:30 / 展示室	計60人

主な紹介記事・番組

月日	紹介内容
9月	「スペイン・リアリズムの密度 磯江毅展」 アートインデックス
9月11日	「Arte espanol de un japonés」 International Press en espanol
9月16日	「リアリズム追究「磯江毅展」」 タウンニュース1170号
10月2日	「現代リアリズム追究 平塚 磯江毅さんの作品展」 神奈川新聞
10月8日	「特集展 磯江毅展 企画展 堀文子展 平塚市美術館で同時開催」 湘南ホームジャーナル1435号
10月21日	「諏訪敦×磯江毅 スペイン・リアリズムの密度 磯江毅展をめぐって」 新美術新聞
10月26日	「細密でリアルな写実作品 磯江毅展/大竹伸明展」 毎日新聞
10月27日	「いま再び写実 主義から思想へ 若手が台頭」 朝日新聞

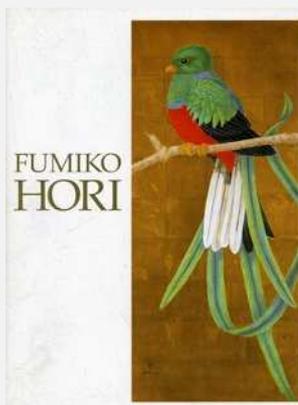
6 堀文子展

会期：2010年10月9日(土)～11月23日(火・祝)

種別	企画展
主催	平塚市美術館
助成	財団法人 花王芸術・科学財団 / 公益財団法人 野村財団
協賛	神奈川中央交通株式会社
協力	株式会社ナカジマアート
開館時間	9:30-17:00(入場は-16:30)
休館日	月曜日 10月11日は開館し翌日休館。
観覧料	一般 800円、高大生 500円 各減免をのぞく
開催日数	39日
入場者数	17,181人
担当	勝山滋(当館学芸員)



リーフレット



図録



展示風景

内容

堀文子(ほりふみこ 1918 -)は現在の女子美術大学在学中の1941年、新しい日本画をめざす新美術人協会に出品し、戦後も創造美術、新制作協会日本画部、創画会と常に革新的なグループに属し、新しい日本画の創造に邁進し、受賞を重ね、注目されました。1952年には第2回上村松園賞を受賞しています。

近代絵画の造形を追求しアンリ・ルソーなどの影響を感じさせる作品ののち、「霧の野」前後から自然の花や自然を新鮮な感性で捉えた作品を発表しますが、1961年から3年に及ぶ欧米、メキシコ旅行、イタリア・トスカーナでの生活、ヒマラヤやアマゾンなど辺境各地への旅行は、作家の感動となり、旧来の日

本画にない技法や自由なテーマで清新な作品を生み出しました。

近年は顕微鏡でのぞく微生物の世界や切り絵にもどん欲な作家魂をのぞかせ、90 才を超えてなお旺盛な創作活動を展開しています。一方社会的にも自立した女性作家の先駆けとして幾多の困難をのりこえ、自我を確立した女性としての箴言や人生観は大きな憧憬を集めています。

本格的な堀文子展は関東では 2004 年以來 6 年ぶりとなり、公立美術館としては初めての開催となりました。初期から現在にいたる代表作、および絵本原画など延べ 80 点の作品によって多彩な活躍をみせる堀文子の画業をご鑑賞いただきました。

出品リスト

NO	作品名	制作年	サイズ(cm)	技法・材質	所蔵先	出品歴
1	結実	1941	66.0×63.5	紙本彩色額		第 4 回新美術家協会展
2	植物	1941 頃	31.0×40.0	紙本彩色額		
3	朝	1948	61.0×72.5	紙本彩色額		
4	稲束の群れ	1948	38.0×49.5	紙本彩色額		第 1 回創造美術展
5	廃墟	1948	88.1×70.7	紙本彩色額	秋田県立近代美術館	第 1 回創造美術展
6	八丈島風景 B	1949	70.7×88.1	紙本彩色額	秋田県立近代美術館	第 2 回創造美術展
7	八丈島	1950	91.5×73.0	紙本彩色額		第 2 回春季創造美術展
8	月と猫	1950 頃	100.0×72.7	紙本彩色額		
9	猫	1950 頃	33.0×23.0	紙本彩色額		
10	花	1951	80.6×61.0	紙本彩色額		第 5 回女流画家協会展
11	山岳風景	1951 頃	181.3×127.8	紙本彩色額		
12	高原	1952	72.5×126.0	紙本彩色額	中央大学	
13	しゃも	1952	90.0×116.0	紙本彩色額		第 1 回日本国際美術展
14	高原	1952	128.5×183.0	紙本彩色額		第 16 回新制作展
15	山	1953	126.0×180.0	紙本彩色額		第 17 回新制作展
16	滝	1954	117.0×72.8	紙本彩色額		第 1 回現代日本美術展
17	暗い谷	1954	173.5×87.0	紙本彩色額		第 18 回新制作展
18	山	1954	64.0×100.0	紙本彩色額		第 18 回新制作展
19	山の思い出	1955	161.0×360.0	紙本彩色額、六曲一隻		第 19 回新制作展
20	楽しい仲間	1956	86.0×173.0	紙本彩色額		第 20 回新制作展
21	海辺	1956	112.1×193.9	紙本彩色額		第 20 回新制作展
22	街	1957	73.2×117.3	紙本彩色額		第 21 回新制作展
23	稲束	1958 頃	45.0×59.0	紙本彩色額		第 9 回秀作美術展
24	ふくろう	1958	91.5×117.5	紙本彩色額		第 10 回新制作展春季展
25	連峰	1958	73.5×117.3	紙本彩色額		第 22 回新制作展
26	稲倉	1959	112.5×146.0	紙本彩色額		第 23 回新制作展
27	霧の野	1960	112×145.5	紙本彩色額	東京国立近代美術館	第 24 回新制作展
28	魔王の館	1964	121.5×198.0	紙本彩色額		第 28 回新制作展
29	紫の雨	1965	72.8×91.2	紙本彩色額	名都美術館	堀文子作品展
30	マヤの落日	1965	117.0×80.5	紙本彩色額		堀文子作品展
31	階段	1965	121.5×198.0	紙本彩色額		第 8 回日本国際美術展
32	うつろな神々	1965	162.0×227.5	紙本彩色額		第 29 回新制作展
33	チアパスの夜	1966	112.1×193.9	紙本彩色額		第 7 回現代日本美術展
34	仮面と老婆	1966	130.0×181.0	紙本彩色額		第 30 回新制作展
35	夏	1967	112.5×194.5	紙本彩色額	兵庫県立川西緑台高等学校	第 31 回新制作展
36	春炎	1970	128.0×192.0	紙本彩色額	箱根・芦ノ湖 成川美術館	第 34 回新制作展
37	春の来る径	1971	193.9×112.1	紙本彩色額	キヤノン電子株式会社	第 35 回新制作展
38	霧渡る山路(霧渡る山径)	1972	144.0×206.0	紙本彩色額	箱根・芦ノ湖 成川美術館	第 36 回新制作展
39	花霞	1973	227.3×181.8	紙本彩色額		第 37 回新制作展
40	花吹雪	1978	200.0×100.0	紙本彩色額	国際交流基金	第 5 回創画展
41	風	1978	200.0×100.0	紙本彩色額	国際交流基金	第 5 回創画展
42	初秋	1979	158.0×229.0	紙本彩色額	神奈川県立近代美術館	第 6 回創画展
43	蓮	1980	193.0×129.0	紙本彩色額	神奈川県立近代美術館	第 7 回創画展
44	初秋	1981	191.0×137.0	紙本彩色額	箱根・芦ノ湖 成川	第 8 回創画展

					美術館	
45	霧氷	1982	158.0×229.0	紙本彩色額	神奈川県立近代美術館	第9回創画展
46	早苗の頃	1983	138.0×220.0	紙本彩色額		第10回創画展
47	散る秋	1984	100.0×60.0	紙本彩色額	アサヒビール株式会社	
48	こぶし咲く	1984	193.5×130.0	紙本彩色額	箱根・芦ノ湖 成川美術館	第11回創画展
49	夕映え	1985	155.0×187.0	紙本彩色額	キヤノン電子株式会社	第12回創画展
50	離山凍る	1986	145.0×190.0	紙本彩色額	名都美術館	第13回創画展
51	凍る森	1987	53.3×73.0	紙本彩色額	奈良県立美術館	
52	浅間厳冬	1987	194.0×120.0	紙本彩色額		第14回創画展
53	冬野の詩	1988	140.0×190.0	紙本彩色額		第15回創画展
54	流れ行く山の季節	1990	161.5×129.7	紙本彩色額	佐藤美術館	花と緑の博覧会
55	トスカーナの花野	1990	83.3×116.5	紙本彩色額		1991年堀文子展
56	アンギャリタ映え	1990	115.0×175.0	紙本彩色額		第17回創画展
57	終り	1992	53.0×65.2	紙本彩色額		堀文子日本画展 於 Arezzo
58	蜂鳥が来る	1995頃	41.0×31.8	紙本彩色額		
59	サミット	1998	37.9×45.5	紙本彩色額		
60	葉切り蟻の行列	2001	24.2×40.9	紙本彩色額		
61	幻の花 ブルーボビー	2001	45.5×33.3	紙本彩色額		堀文子新作展 2001…現在
62	青い鳥を運ぶブルカの女	2002	104.0×60.0	紙本彩色額		堀文子新作展 2002…現在
63	極微の宇宙に生きるものたち	2002	45.5×38.0	紙本彩色額		堀文子新作展 2002…現在
64	鳥達の歌	2002	60.6×45.5	紙本彩色額		堀文子新作展 2002…現在
65	くらげ	2003	40.9×31.8	紙本彩色額		堀文子新作展 2003…現在
66	華やく終焉	2004	50.2×65.2	紙本彩色額	葦崎大村美術館	堀文子新作展 2004…現在
67	天空に遊ぶ	2005	53.0×45.5	紙本彩色額	㈱星野リゾート	堀文子新作展 2005…現在
68	甲骨文	2005	13.0×23.5	テラコッタ		堀文子新作展 2006…現在
69	芒	2006	28.7×38.5	金属板、額		堀文子新作展 2006…現在
70	雪嶺	2007	80.3×100.0	紙本彩色額		堀文子展(高島屋)
71	蜘蛛の家	2008	50.5×42.0	金属板、額		堀文子新作展 2008…現在
72	尊像	2008	65.2×50.5	紙本彩色額		堀文子新作展 2008…現在
73	幼生達の集い	2008	23.0×40.0	紙本彩色額		堀文子新作展 2008…現在
74	インカの祭	2008	38.5×45.7	紙本彩色額		堀文子新作展 2008…現在
75	お伽話	2009	23.0×40.0	コラージュ、紙、額		堀文子新作展 2009…現在
76	空を飛ぶ妖怪(ナスカ)	2009	32.2×53.1	紙本彩色額		堀文子新作展 2009…現在
77	ケツァール(古代マヤの守護神)	2009	98.0×54.0	紙本彩色額		堀文子新作展 2009…現在
78	ピップとちようちよう	1956	各 25.6×36.4	紙本彩色額	宮城県美術館	『こどものとも』創刊号
79	絵本「はなとあそんできたふみこちゃん」原画	1958	各 25.8×36.5	水彩、パステル、鉛筆、コラージュ、紙	宮城県美術館	『こどものとも』25号
80	絵本「くるみわりにんぎょう」(原画)16点	1972	—	紙・モタイク、手彩色、鉛筆、額		第9回国際絵本原画展(ポローニャ)

関連事業

事業名	日時、場所、講師等	参加者
対談「堀文子先生に伺う」	10月16日(土) 14:00~15:15 / ミュージアムホール 聞き手：草薙奈津子(当館館長)	410人
担当学芸員によるギャラリートーク	10月30日(土)、11月13日(土) 各回 14:00~15:00 / 展示室	計 120人

展覧会図録 『堀文子』

発行年	2010年10月
価格	2000円
体裁	28.7×21.8cm 152頁
テキスト	堀文子「展覧会によせて」/草薙奈津子「人間 - 堀文子 - 画家」/勝山滋「堀文子 人生と作品」
作品図版	出品作品 80点、参考作品 114点
資料等	参考作品、年譜、文献目録、出品目録
発行	平塚市美術館
制作	印象社

主な紹介記事・番組

月日	紹介内容
10月1日	「みずみずしい感性の軌跡を追う展覧会 堀文子展 - 絵を描いて75年 -」 湘南よみうり
10月	「絵を描いて75年 堀文子展」 『定年時代』10月号
10月	「絵を描いて75年 堀文子展」 『ゆうゆう』11月号
10月	「作家の素顔 堀文子」 月刊『展覧会ガイド』10月号
10月8日	「特集展 磯江毅展 企画展 堀文子展 平塚市美術館で同時開催」 湘南ホームジャーナル1435号
10月	「堀文子展」 『毎日が発見』81号
10月8日	「特集展 磯江毅展 企画展 堀文子展 平塚市美術館で同時開催」 湘南ホームジャーナル1435号
10月9日	「92歳日本画家 平塚で作品展」 読売新聞
10月13日	「堀文子展 「忘れていた自分に会った」その時代の感動が永遠に」 神奈川新聞
10月15日	「堀文子展～絵を描いて75年～」 神静新聞
10月24日	「アートシーン」 NHK日曜美術館
11月12日	「ゆったりアート ユニークさにウキウキ」 毎日新聞

7 高瀬省三・石橋聖肖像展

会期：2010年11月9日(火)～12月23日(木・祝)

種別	特集展
主催	平塚市美術館
開館時間	9:30-17:00(入場は-16:30)
休館日	月曜日
観覧料	一般200円、高大生100円 各減免をのぞく
開催日数	39日
入場者数	6,684人
担当	江口恒明(当館学芸員)



リーフレット



展示風景



展示風景

内容

湘南ゆかりの作家・高瀬省三と石橋聖肖の二人展を開催しました。

高瀬省三(たかせしょうぞう 1941-2002)は東京に生まれ、30歳を過ぎてから本格的に日本画家として活動しましたが、60歳を前に末期がんの宣告を受け、その後、自身のアトリエに近い大磯の海岸で集めた流木を使って、彫刻制作に残された時間を費やしました。流木の朽ちた部分を頭部像の首に用いたり、小さくあいた多数の穴の部分を蝉の翅に見立てるなど、その形状を巧みに利用しています。死を目前にした濃密な時間に制作された彫刻は、悠久の時間と神聖な気配を漂わせるものです。

石橋聖肖(いしばしまさのり 1965-)は、茅ヶ崎に生まれ、東京藝術大学大学院彫金専攻を修了し、現在も同地で制作を続ける現代の彫金作家です。在学中には原田賞を受賞するなど、早くから力量を発揮しています。その作品は、伝統的な彫金とは異なり、彫刻やオブジェを志向するだけでなく、風景画を見ているようでもあります。どこか古風なモチーフで繊細に表現された細部と、記憶の奥から蘇ってくるような景観をつくる作品全体とを対比的に眺めると、その幻想的な世界に引き込まれていきます。

本展では、高瀬省三の最晩年の1年間に制作した彫刻作品、ならびに石橋聖肖の東京藝大在学中の作品から最近作までの51点を紹介しました。親しみやすさと神秘的な雰囲気とをあわせもつ作品をお楽しみいただきました。

出品リスト

NO	作家名	作品名	制作年	サイズ(cm)	技法・材質
1	高瀬省三	風の化石	2002年	25.0×27.0×44.0	岩絵具・木
2	高瀬省三	午後の魂 男	2002年	27.0×14.0×55.0	岩絵具・木
3	高瀬省三	午後の魂 女	2002年	27.0×14.0×52.0	岩絵具・木
4	高瀬省三	風を待つ	2002年	66.5×23.5×51.0	岩絵具・木
5	高瀬省三	火の子	2002年	42.0×27.0×34.0	岩絵具・木
6	高瀬省三	デクさん	2002年	15.0×23.0×51.0	岩絵具・木
7	高瀬省三	砂の足あと	2002年	27.0×12.0×25.0	岩絵具・木
8	高瀬省三	砂のゆくえ	2002年	16.5×23.0×50.5	岩絵具・木
9	高瀬省三	聖牛	2002年	37.0×30.0×57.0	岩絵具・木
10	高瀬省三	月光と海へび	2002年	23.0×41.0×22.0	岩絵具・木
11	高瀬省三	若き大王	2002年	20.5×22.0×43.0	岩絵具・木
12	高瀬省三	KARASU	2002年	50.0×14.5×32.0	岩絵具・木
13	高瀬省三	少年の夏	2002年	23.0×47.0×65.0	岩絵具・木
14	高瀬省三	仮面舞踏会の帰り	2002年	10.0×55.0×21.0	岩絵具・木
15	高瀬省三	海の音	2002年	46.0×46.0×55.5	岩絵具・木
16	高瀬省三	空が恋しい	2002年	48.0×45.5×136.0	岩絵具・木
17	高瀬省三	歩きたい椅子	2002年	120.0×25.5×91.0	岩絵具・木
18	高瀬省三	五月の朝	2002年	42.0×93.0×57.0	岩絵具・木
19	高瀬省三	古代魚 もしくはベンチ	2002年	165.0×48.0×55.5	岩絵具・木
20	高瀬省三	本	2002年	9.0×15.0×4.0	岩絵具・木
21	高瀬省三	遠い思い出	2002年	83.0×45.0×93.0	岩絵具・木
22	高瀬省三	蝉の女 樹液	2002年	31.0×10.0×43.0	岩絵具・木
23	高瀬省三	蝉の女 ひざし	2002年	15.0×11.0×41.0	岩絵具・木
24	高瀬省三	蝉の女 めざめ	2002年	38.0×36.0×44.0	岩絵具・木
25	高瀬省三	海の卵	2002年	50.0×20.0×34.0	岩絵具・木
26	高瀬省三	カワウソ	2002年	200.0×40.0×60.0	岩絵具・木
27	高瀬省三	さとうきび畑	2002年	50.0×50.0	岩絵具・木
28	石橋聖肖	机上絃想(部分)	1995年	15.0×7.0×16.0	銅、真鍮、銀
29	石橋聖肖	生存哲学	1996年	110.0×80.0×35.0	銅、真鍮、金メッキ
30	石橋聖肖	水恋	1998年	20.0×23.0×21.0	銅、銀、真鍮
31	石橋聖肖	丘 灯台	1998年	15.0×15.0×43.0	銅、銀メッキ
32	石橋聖肖	丘 家	1998年	16.0×14.0×35.0	銅
33	石橋聖肖	風の路	1999年	35.0×9.0×23.0	銅、真鍮、銀
34	石橋聖肖	風	2000年	4.5×10.0×6.5	銅
35	石橋聖肖	月の夜	2000年	9.0×8.0×15.5	銅、真鍮、銀
36	石橋聖肖	漂泊	2001年	25.0×8.0×2.0	銅、真鍮、ステンレス
37	石橋聖肖	風の夜	2001年	10.0×10.0×15.0	銅、真鍮
38	石橋聖肖	渺渺連続	2002年	48.0×36.0×7.0	銅、四分一、金メッキ、アクリル

39	石橋聖肖	もっと遠く、より近く	2002年	50.0×40.0×50.0	銅、銀、真鍮、ステンレス
40	石橋聖肖	萌芽	2002年	7.0×7.0×13.0	銅、真鍮
41	石橋聖肖	キャンピング	2003年	33.0×23.0×6.0	銅、真鍮、銀、アクリル
42	石橋聖肖	心模様	2004年	30.0×8.0×55.0	銅、真鍮、金メッキ
43	石橋聖肖	礎	2006年	23.0×19.0×14.0	銅、真鍮、銀
44	石橋聖肖	凧	2007年	20.0×20.0×10.0	銅、真鍮、檜
45	石橋聖肖	晴天	2008年	18.0×38.0×10.0	銅、真鍮、銀、銀箔、アクリル、アガチス
46	石橋聖肖	絵画的空間考察	2008年	27.0×13.0×25.0	銅、真鍮、銀、銀箔
47	石橋聖肖	泊1	2009年	18.0×14.0×12.0	銅、真鍮、銀
48	石橋聖肖	泊2	2009年	32.0×7.0×12.0	銅、真鍮、銀、樺
49	石橋聖肖	羊飼いの島	2009年	15.0×13.0×34.0	銅、真鍮、銀
50	石橋聖肖	水彩	2009年	35.0×23.0×9.0	銅、銀
51	石橋聖肖	想望	2010年	13.0×15.0×35.0	銅、真鍮、銀蝋

関連事業

事業内容	日時、場所、講師等	参加者
担当学芸員によるギャラリートーク	11月20日(土)、28日(日)、12月4日(土)、12日(日) 各回13:30～14:00 / 展示室	計40人

主な紹介記事・番組

月日	紹介内容
11月10日	「湘南ゆかり2氏紹介 平塚市美術館で作品展」 神奈川新聞
11月11日	「湘南ゆかりの作家 彫刻・彫金作品展」 タウンニュース1178号
12月2日	「高瀬省三・石橋聖肖展 平塚市美術館で12月23日まで」 神静民報
12月4日	藤島俊会「神奈川の文化時評 美術 高瀬省三・石橋聖肖展」 神奈川新聞

8 ロビー展 「モノ・黒」樋口健彦の仕事 2005-2010

会期：2010年12月4日(土)～2011年4月10日(日)

3月11日に発生した東日本大震災の影響により、3月15日(火)～31日(木)まで閉館措置がとられました。

種別	特集展
主催	平塚市美術館
開館時間	9:30-17:00(入場は-16:30)
休館日	月曜日 年末年始12月29日(水)～1月3日(月) 1月10日(月・祝)、3月21日(月・祝)は開館し翌日休館
観覧料	無料
開催日数	105日
入場者数	自由観覧のため集計無し
担当	安部沙耶香(当館学芸員)



展示風景



展示風景



展示風景

内容

鎌倉在住で現在活躍中の美術家・樋口健彦(ひぐちたけひこ 1966-)は、大阪芸術大学工芸科陶芸コース卒業し、多摩美術大学陶芸専攻研究生を経た後、国内外でレジデンスプログラムに参加し制作活動を続けました。90年代から多方面での発表の機会を得て、精力的に活動の場を広げています。

一見すると金属のような樋口作品は、陶に墨を吸い込ませバーナーで焦がしながら仕上げていくという独自の技法で作られており、光を拒絶した漆黒の美しさに特徴があります。彼の作品は主に3つのシリーズが挙げられます。台形の陶板を何枚も重ね、幾何学的形態を示す「RealNumber」。これは1998年に発表されてから、その後の彼の代表作となりました。もうひとつは表面に無数の穴がつけられた黒い球体である「大黒玉」。これは2006年頃から登場し、直径10センチから1メートルと大小様々です。さらにもうひとつは、断面をコの字や口の字を象った薄い陶板のシリーズです。これは「大黒玉」とほぼ同時期に登場しました。本展ではこれらの代表的なシリーズ及び新作を含む18点を展示しました。

公立美術館で初の個展となる本展は、多くの来館者の方にご覧いただけるよう館内無料スペースを利用しました。新鮮み溢れる樋口健彦の作品世界をご鑑賞いただきました。

出品リスト

NO	作品名	制作年	サイズ(mm)	技法・材質	所蔵先
1	untitled	2005年	h180×w860×d540	墨、陶、モルタル	作家蔵
2	untitled	2005年	h390×w750×d560	墨、陶	作家蔵
3	黒玉	2006年	h550×w570×d570	墨、陶	作家蔵
4	黒玉	2006年	h550×w570×d570	墨、陶	作家蔵
5	大黒玉	2007年	h920×w940×d950	墨、陶	作家蔵
6	untitled	2009年	h265×w720×d125	墨、陶	当館蔵
7	untitled	2009年	h540×w780×d530	墨、陶	作家蔵
8	untitled	2009年	h108×w820×d380	墨、陶	作家蔵
9	untitled	2009年	h150×w790×d280	墨、陶	作家蔵
10	untitled-h1	2010年	h760×w490×d510	墨、陶	作家蔵
11	untitled-h2	2010年	h520×w680×d450	墨、陶	作家蔵
12	untitled-h3	2010年	h460×w710×d500	墨、陶	作家蔵
13	Real Number 2010-h4	2010年	h300×w656×d310	墨、陶	作家蔵
14	untitled-h5	2010年	h800×w490×d410	墨、陶	作家蔵
15	玉	2010年	h560×w540×d540	墨、陶	作家蔵
16	Real Number 2010-hs1	2010年	h62×w162×d125	墨、陶	作家蔵
17	untitled-hs2	2010年	h165×w215×d165	墨、陶	作家蔵
18	untitled-hs3	2010年	h185×w185×d180	墨、陶	作家蔵

主な紹介記事・番組

月日	紹介内容
1月17日	「平塚で造形作品展」 読売新聞
1月21日	「平塚市美術館 春の所蔵品展と樋口健彦展」 湘南ホームジャーナル1450号

春の所蔵品展 東洋を描く湘南の洋画家たち

会期：2011年1月4日(火)～2011年4月10日(日)

3月11日に発生した東日本大震災の影響により、3月15日(火)～31日(木)まで閉館措置がとられました。

種別	特集展
主催	平塚市美術館
開館時間	9:30-17:00(入場は-16:30)
休館日	月曜日 1月10日(月・祝)、3月21日(月・祝)は開館し翌日休館
観覧料	無料
開催日数	84日
入場者数	2,310人
担当	小池光理(当館学芸員)



河野通勢(桃源郷に遊ぶ人々)



鳥海青児《根来瓶子と果物》



展示風景

内容

春の所蔵品展では「東洋を描く湘南の洋画家たち」と題して、洋画家として出発しつつ、日本的・東洋的な世界にまなざしを向け、題材として描いた画家たちの作品をご紹介します。

岸田劉生(きしだ りゅうせい 1891-1929)は、近代日本を代表する洋画家で、北方ルネサンス絵画に影響を受けた写実様式に特徴があります。劉生の主宰する「草土社」には、その表現に共鳴した河野通勢(こうの みちせい 1895-1950)や椿貞雄(つばきさだお 1896-1957)が集いました。三人はそれぞれが、油彩による日本的画題の表現を目指しました。井上三綱(いのうえさんこう 1899-1981)は、戦後、禅をはじめとした東洋思想に傾倒し、キャンバスや油絵具と、日本画材料である胡粉を併用して、モダンな線描による作品を制作しました。二見利節(ふたみりせつ 1911-76)は井上三綱に師事した画家で、九死に一生を得た戦争体験、そして神道などの影響から、独自の宗教観による色鮮やかで特異なパステル画を数多く残しました。鳥海青児(ちょうかいせいじ 1902-72)は、ゴヤやドラクロアから影響を受け、雄大な大地の表現、また形態の抽象化・単純化による表現を行う一方、油彩で日本の風土をいかに描くかを探究しています。田澤茂(たざわしげる 1925-)は、故郷津軽の民話、羅漢や地蔵などの愛らしい群像を描き、近年の「魍魎魍魎」シリーズでは、欲に走る現代社会を諷刺しています。平野杏子(ひらのきょうこ 1930-)は、60年代に仏教に基づいた抽象的で幻想的な画風を確立して大作を発表し、近年の「オトタチバナヒメ」の版画シリーズは、9月11日のニューヨークのテロ事件の直後に構想されました。

出品作家たちは、いずれも西洋の技法を学びながら、東洋の精神に共鳴して、個性豊かな作品を描き出しました。現代を生きる作家たちはまた、造形の問題にとどまらず、鋭い批判精神をもって、現代社会の抱える問題にアプローチしています。49点の作品による彼らの多彩な表現をご鑑賞いただきました。

出品リスト

NO	作家名	作品名	制作年	サイズ(cm)	技法・材質
1	鳥海青児	林泉	1947(昭和22)年	53.4×45.7	油彩・キャンバス
2	鳥海青児	はにわ	1959(昭和34)年	41.2×27.3	油彩・キャンバス
3	鳥海青児	木心の出た法隆寺塑像	1967(昭和42)年	99.7×80.6	油彩・キャンバス
4	鳥海青児	伊賀瓶子とメロン	1957(昭和32)年	72.8×60.2	油彩・合板
5	鳥海青児	根来瓶子と果物	1971(昭和46)年	60.8×50.4	油彩・キャンバス

6	田澤 茂	民話 紋	1964(昭和 39)年	169.3×184.5	油彩・パラフィン・ボード
7	田澤 茂	魍魎魍魎・銀	1999(平成 11)年	194.0×130.0	油彩・キャンバス
8	田澤 茂	羅漢さん・遊	1991(平成 3)年	162.1×194.0	油彩・キャンバス
9	河野通勢	桃源郷に遊ぶ人々	1941-42(昭和 16 - 17)年頃	160.0×156.0	墨、彩色・紙
10	岸田劉生	梅窓黒白	1929(昭和 4)年	21.5×14.6	彩色・紙
11	岸田劉生	後庭春昼	1929(昭和 4)年	21.5×14.9	彩色・紙
12	岸田劉生	霖雨笠暮之図	1929(昭和 4)年	21.6×14.9	彩色・紙
13	岸田劉生	二童黒白	1929(昭和 4)年	21.5×15.0	彩色・紙
14	岸田劉生	昆虫黒白	1929(昭和 4)年	21.6×14.9	彩色・紙
15	岸田劉生	冬至対奕	1929(昭和 4)年	21.6×15.4	彩色・紙
16	椿貞雄	菊子坐像	1922(大正 11)年	60.8×45.5	油彩・キャンバス
17	椿貞雄	朝子像	1927(昭和 2)年	41.0×32.0	油彩・キャンバス
18	平野杏子	善財南に行く	1974(昭和 49)年	130.3×194.0	油彩・キャンバス
19	平野杏子	蘇生する善知識	1978(昭和 53)年	181.0×227.0	油彩・キャンバス
20	平野杏子	迦毘羅城の黄昏	1971(昭和 46)年	182.0×227.5	油彩・キャンバス
21	平野杏子	菩提樹の下のある日	1970(昭和 45)年	130.3×162.1	油彩・キャンバス
22	平野杏子	オトタチバナヒメ 予兆	2002(平成 14)年	28.0×40.0	シルクスクリーン・紙
23	平野杏子	オトタチバナヒメ 動波	2002(平成 14)年	28.0×40.0	シルクスクリーン・紙
24	平野杏子	オトタチバナヒメ 乱	2002(平成 14)年	28.0×40.0	シルクスクリーン・紙
25	平野杏子	オトタチバナヒメ 飛翔入水	2002(平成 14)年	28.0×40.0	シルクスクリーン・紙
26	平野杏子	オトタチバナヒメ 霊水	2002(平成 14)年	28.0×40.0	シルクスクリーン・紙
27	平野杏子	オトタチバナヒメ 験	2002(平成 14)年	28.0×40.0	シルクスクリーン・紙
28	平野杏子	オトタチバナヒメ 凧	2002(平成 14)年	28.0×40.0	シルクスクリーン・紙
29	二見 利節	瑞雲のある牡丹図	1974(昭和 49)年頃	53.0×41.0	油彩・キャンバス
30	二見 利節	柿の實のある風景	1971(昭和 46)年	38.0×45.6	油彩・キャンバス
31	二見 利節	群像	1965-70(昭和 40-45)年	33.6×60.0	パステル・紙(ルーフィング)
32	二見 利節	宙	1965-70(昭和 40-45)年	53.0×44.7	パステル・紙(ルーフィング)
33	二見 利節	彼岸	1965-70(昭和 40-45)年	50.5×81.0	パステル・紙(ルーフィング)
34	二見 利節	羅上	1971(昭和 46)年	91.0×180.0	水彩、ペン、胡粉・紙
35	二見 利節	麦	1965-70(昭和 40-45)年	19.1×27.0	ろう、コンテ・紙
36	二見 利節	麦	1965-70(昭和 40-45)年	19.1×27.0	ろう、コンテ・紙
37	二見 利節	麦	1965-70(昭和 40-45)年	19.1×27.0	ろう、コンテ・紙
38	二見 利節	麦	1960(昭和 35)年頃	19.1×27.0	パステル、ろう・紙
39	二見 利節	楽園	1965-70(昭和 40-45)年	39.6×36.5	パステル・紙
40	二見 利節	果物	1965-70(昭和 40-45)年	25.6×26.8	パステル・紙
41	二見 利節	花	1965-70(昭和 40-45)年	27.0×24.2	パステル・紙
42	井上 三綱	風の中の牛	1966(昭和 41)年	173.2×367.3	墨、紙片・紙
43	井上 三綱	泰山石刻	1972(昭和 47)年	各 156.0×365.0	墨、彩色、紙片・紙
44	井上 三綱	武人たち	制作年不詳	45.4×95.6	油彩・キャンバス
45	井上 三綱	乳牛三頭	1951(昭和 26)年	70.0×117.4	墨、弁柄、胡粉・キャンバス
46	井上 三綱	水辺の馬	1951(昭和 26)年	71.2×116.0	墨、弁柄、胡粉・キャンバス
47	井上 三綱	はたおり	1956(昭和 31)年	72.8×53.2	油彩、墨、弁柄、胡粉・キャンバス

関連事業

事業内容	日時、場所、講師等	参加者
担当学芸員によるギャラリートーク	1月16日(日)、2月13日(日)、3月13日(日) 各回14:00～14:30 / 展示室	5人

主な紹介記事・番組

月日	紹介内容
1月21日	「平塚市美術館 春の所蔵品展と樋口健彦展」 湘南ホームジャーナル1450号

教育普及

担当：小池光理(当館学芸員)、安部沙耶香(当館学芸員)、六島芳朗(当館嘱託員)

35のプログラムを計画し、33プログラムを実施しました。(東北大震災の影響で2プログラムが中止)。

総参加者数は871人。

1 子育て支援プログラム 遊んでのびのび「ベビーアート」		参加者 48人
日数・開催日	4/22(木),5/13(木),6/10(木)連続講座	講師：富田めぐみさん(アートで子育てアドバイザー)
対象	親子(1才~2才3ヶ月)	内容：赤ちゃんは美術を通して家では出来ない体験をし、お母さんは子どもの成長と子育てに関する悩みを解消しました。
材料費	500円	
2 心のお絵かきシリーズ 「親子でコラージュ」		参加者 19人
日数・開催日	4/24(土)	講師：福山恵美子さん(アートセラピスト)
対象	親子(小中学生)	内容：紙を切る、貼るなどを通してストレス解消し、同時に自分の新しい面に気づきました。
材料費	100円	
3 みんなの光るどろだんご講座		参加者 44人
日数・開催日	5/5(水祝) 午前・午後開催	講師：岩月真由子さん(土の美術家)
対象	小学生	内容：左官の技法「千石磨き」を使って光るどろだんごを制作。
材料費	1,000円	
4 東海大学との協働事業 頭部を見て・描いて・作る～絵画から彫刻へ～		参加者 11人
日数・開催日	5/30(日),6/6(日),6/13(日) 連続講座	講師：東海大学芸術学科美術学課程の先生方
対象	一般	内容：当館の彫刻を題材に、絵画と彫刻について木炭でデッサンすること、粘土で造形することを通して基礎を学びました。
材料費	2,000円	
5 江戸の伝統紙細工～七夕の紋切り遊び～		参加者 13人
日数・開催日	6/9(水),6/12(土) 連続講座	講師：下中菜穂さん(紋切り作家)
対象	一般	内容：江戸の伝統紙細工「紋切り」で和紙を切り抜いて文様を作り、障子紙にはって七夕飾りを作りました。
材料費	1,200円	
6 子育て支援プログラム 遊んでのびのび「ベビーアート」		参加者 46人
日数・開催日	7/1(木),8/5(木),9/9(木) 連続講座	講師：富田めぐみさん(アートで子育てアドバイザー)
対象	親子(1才~2才3ヶ月)	内容：赤ちゃんは美術を通して家では出来ない体験をし、お母さんは子どもの成長と子育てに関する悩みを解消しました。
材料費	500円	
7 べたべた光の水族館		参加者 16人
日数・開催日	7/23(金)	講師：岩田晶子さん(子ども美術教室講師)
対象	4才~小学生	内容：塗って、お魚のかたちに切り抜いて大きな台紙に貼り、テーマホールに巨大な壁画を出現させました。
材料費	200円	
8 子育て支援プログラム「つくって遊ぼう わくわくランド」		参加者 98人
日数・開催日	7/24(土),8/21(土)	講師：平塚市保育士の方々5名
対象	6才までの未就学児	内容：保育士の指導でパンチボールなど、おもちゃの制作をしました。
材料費	無料	

9 心のお絵かきシリーズ 心をパワーアップさせるコラージュのマイ・カード作り		参加者 14人
日数・開催日	7/24(土)	講師：福山恵美子さん(アートセラピスト)
対象	親子(小学生～高校生)	内容：チラシや雑誌・写真から自分の好きなものや、気に入ったところを切り取ってコラージュをしました。
材料費	100円	

10 小中学校教員向け消しゴムはんこ ～つくるたのしみ おすたのしみ～		参加者 22人
日数・開催日	7/29(木)	講師：津久井智子さん(消しゴムはんこ職人)
対象	小中学校教諭	内容：下準備、刀の持ち方からじっくり教わり、作ったハンコでバッグやハガキにスタンプしました。
材料費	1,500円	

11 べたべた光の水族館		参加者 15人
日数・開催日	7/30(金)	講師：岩田晶子さん(子ども美術教室講師)
対象	4才～小学生	内容：塗って、お魚のかたちに切り抜いて大きな台紙に貼り、テーマホールに巨大な壁画を出現させました。
材料費	200円	

12 黒崎俊雄展関連 アートな夏のTシャツ作り		参加者 15人
日数・開催日	7/31(土) 午前	講師：黒崎俊雄さん(造形作家)
対象	一般	内容：チューブ絵の具でTシャツに自由に描いてオリジナルTシャツを作りました。
材料費	900円	

13 黒崎俊雄展関連 Tシャツに描こう！夏休みのアート体験		参加者 7人
日数・開催日	7/31(土) 午後	講師：黒崎俊雄さん(造形作家)
対象	親子(小学生)	内容：チューブ絵の具でTシャツに自由に描いてオリジナルTシャツを作りました。
材料費	900円	

14 みんなの光るどろだんご講座		参加者 41人
日数・開催日	8/6(金)午前・午後2回開催	講師：岩月真由子さん(土の美術家)
対象	小学生	内容：左官の技法「千石磨き」を使って光るどろだんごを制作。
材料費	1,000円	

15 絵の具と遊ぼう!! 缶バッジづくり!		参加者 9人
日数・開催日	8/10(火)	講師：六島芳朗(当館職員)
対象	中学生	内容：中学生ボランティア・スタッフ向けのプログラム
材料費	無料	

16 絵の具と遊ぼう!! 缶バッジづくり!		参加者 121人
日数・開催日	8/13(金),8/14(土)	講師：六島芳朗(当館職員)中学生ボランティア
対象	4才～一般	内容：市内中学生ボランティアと一緒に缶バッジ作りのワークショップを実施しました。
材料費	50円	

17 銅版画入門 ソフトグラウンドでつくるオリジナル・カード		参加者 15人
日数・開催日	9/28(火)	講師：城戸宏さん(版画工房主宰)
対象	一般	内容：当館のプレス機を使用して銅版画の腐食技法の一つ「ソフトグラウンド」を学びました。
材料費	800円	

18 銅版画入門 エッチングでつくるオリジナル・カード		参加者 11人
日数・開催日	10/15(金)	講師：城戸宏さん(版画工房主宰)
対象	一般	内容：当館のプレス機を使用して銅版画の腐食技法の一つ「エッチング」を学びました。
材料費	800円	

19 子育て支援プログラム：「キッズ・アート」		参加者 49人
日数・開催日	10/7(木)、11/4(木)、12/2(木)連続講座	講師：富田めぐみさん(アートで子育てアドバイザー)
対象	親子(2才6ヶ月～4才までの未就園児)	内容：美術を通して家では出来ない体験をし、お母さんは子どもの成長と子育てに関する悩みを解消しました。
材料費	500円	

20 藍の絞り染め体験		参加者 13人
日数・開催日	10/17(日)	講師：山岸八千代さん、竹村真衣さん
対象	高校生～一般	内容：藍の絞り染めを体験しながら、藍染めについて学びました。
材料費	1,500円	

21 心のお絵かきシリーズ パステルアートで自分発見!!		参加者 18人
日数・開催日	10/23(土)	講師：福山恵美子さん(アートセラピスト)
対象	中学生～一般	内容：心のままに塗ることで「心が元気になる感じ!」をひきだしました。
材料費	200円	

22 伝統書籍「折本(おりほん)」作りを楽しむ		参加者 19人
日数・開催日	10/24(日)	講師：長谷部雄三さん、小林喜代美さん(表装文化伝統支援協会)
対象	高校生～一般	内容：長い紙を折りたたんで和の伝統書籍である折本作りを体験。
材料費	1,000円	

23 陶の造形～いろいろの器～		参加者 14人
日数・開催日	10/30(土)、11/13(土) 連続講座	講師：塩田亜希子さん(陶芸家)
対象	一般	内容：陶芸の基礎を学び、9種の釉薬で絵付けを楽しみました。
材料費	1000円	

24 親子で光るどろだんご～平塚の土でつくろう!!～		参加者 19人
日数・開催日	11/3(水祝) 午前開催	講師：岩月真由子さん(土の美術家)
対象	親子(小学生)	内容：平塚の遺跡の土を使って光るどろだんごを制作。
材料費	1,000円	

25 大人の光るどろだんご～平塚の土でつくろう!!～		参加者 7人
日数・開催日	11/3(水祝) 午後開催	講師：岩月真由子さん(土の美術家)
対象	中学生～一般	内容：平塚の遺跡の土を使って光るどろだんごを制作。
材料費	1,000円	

26 はじめての陶芸～お気に入りのうつわをつくろう～		参加者 16人
日数・開催日	11/6(土)、11/20(土) 連続講座	講師：塩田亜希子さん(陶芸家)
対象	親子(小学生)	内容：お茶碗とお皿を作り、9種の釉薬で絵付けを楽しみました。
材料費	1,000円	

27 かみと遊ぼう! モビールのクリスマスかざり		参加者 26人
日数・開催日	12/12(日) 午前開催	講師：谷内庸生さん(アーティスト)
対象	親子(小学生)	内容：一枚の紙を切ったり折ったりして立体造形を楽しみ、作品はテーマホールに展示しました。
材料費	500円	

28 かみと考えよう クリスマス・オーナメント作り		参加者 7人
日数・開催日	12/12(日) 午後開催	講師：谷内庸生氏さん(アーティスト)
対象	中学生～一般	内容：一枚の紙を切ったり折ったりして立体造形を楽しみ、作品はテーマホールに展示しました。
材料費	500円	

29 子育て支援プログラム 遊んでのびのび「ベビーアート」			参加者 50人
日数・開催日	7/1(木),8/5(木),9/9(木) 連続講座	講師：富田めぐみさん(アートで子育てアドバイザー)	
対象	親子(1才~2才3ヶ月)	内容：赤ちゃんは美術を通して家では出来ない体験をし、お母さんは子どもの成長と子育てに関する悩みを解消しました。	
材料費	500円		

30 色鉛筆で遊ぼう～好きなカタチ・好きな色～			参加者 17人
日数・開催日	1/22(土),1/29(土),2/5(土) 連続講座	講師：寺崎百合子さん(美術家)	
対象	中学生～一般	内容：120色の色鉛筆から好きな色を選んで自分の世界を表現しました。	
材料費	1,200円		

31 ～羊毛の不思議～羊毛から作るカラフルなフェルトのミニマフラー			参加者 19人
日数・開催日	2/13(日)	講師：永井悦子氏(染織アーティスト)	
対象	中学生～一般	内容：羊毛からフェルトを作り裁断して、マフラーというかたちの立体造形を楽しみました。	
材料費	1,000円		

32 黒の魅力～土と墨でつくる陶の彫刻～			参加者 13人
日数・開催日	2/20(日),3/6(日),3/20(日)連続講座	講師：樋口健彦さん(美術家・ロビー展出展作家)	
対象	中学生～一般	内容：黒という色について考えながら粘土で造形表現を楽しみました。	
材料費	1,000円		

33 ころころフェルトのカラフル・オブジェ～羊の毛で遊ぼう～			参加者 19人
日数・開催日	2/27(日)	講師：永井悦子さん(染織アーティスト)	
対象	親子(小学生)	内容：フェルトを何層にも巻いて球体をつくり、切り開いたときの色の重なり的美しさを楽しみ、ネックレス等に加工しました。	
材料費	1,000円		

34 ～親子で版画体験～大型プレス機にチャレンジ！			中止(東北大震災の影響)
日数・開催日	3/12(土)	講師：城戸 宏 さん(版画工房主宰)	
対象	親子(小学生)	内容：葉っぱや段ボールなど、いろいろなものにインクをつけて、プレス機で摺って版画の楽しさを体験します。	
材料費	800円		

35 大型プレス機で楽しい紙版画			中止(東北大震災の影響)
日数・開催日	3/26(土)	講師：城戸 宏 さん(版画工房主宰)	
対象	小学3年生～中学生	内容：紙を切ったり、破ったり、剥がしたりしてつくる紙凹版画で、自由な表現を楽しみます。	
材料費	500円		

参加者数 計 874人

その他の事業

(1) 事業

第33回 平塚市展 2010年6月13日(日)-6月27日(日)

主催	平塚市展委員会
協力	平塚書道協会・湘南美術工芸研究会・平塚美術家協会・平塚写真連盟・平塚市教育委員会
後援	平塚市・平塚市文化連盟・平塚商工会議所・平塚市文化スポーツまちづくり振興財団・S C N湘南ケーブルネットワーク・F M湘南ナバサ
場所	展示室Ⅰ、市民アートギャラリー
日数	13日
参加者数	6,876人

七夕飾り 2010年6月26日(土)-7月4日(日)

主催	平塚市美術館
内容	平塚の七夕祭りにあわせて、ワークショップ「江戸の伝統紙細工～七夕の紋切り遊び」で参加者が制作した七夕飾りを展示しました。また特別展示として、中国の七夕にちなんだ伝統紙細工も、26日の午前中からワークショップ講師、参加者の方々も参加して飾りつけられ、あわせて来館者の目を楽しませていました。 展示指導 下中菜穂氏(ワークショップ講師、紋切り作家)
場所	テーマホール
日数	8日
参加者数	自由観覧



実施風景

アートフェスタ2010 2010年12月18日(土)-12月19日(日) 9:30-16:30

主催	平塚市美術館
内容	今年実施したワークショップ参加者作品を集め発表会を開催しました。19日にはミニライブも開催し、ワークショップ「紙彫刻」で制作したクリスマス飾りのインスタレーションと、ケルトの伝統的な音色を堪能しました。 展示指導 谷内庸生氏(ワークショップ講師 紙の彫刻家)
場所	テーマホール
日数	2日
参加者数	271人(ミニライブ鑑賞者含む)

アートフェスタ期間中のイベント ミニライブ 12月19日(日) 16:00～16:30 申し込み不要・無料

主催	平塚市美術館
出演者	寺本圭佑(ハープ)・大竹 奏(フィドル)
曲目	曲目：庭の千草、清しこの夜 他

内容	ハーブとフィドル(ヴァイオリン)によるアンサンブルをお届けしました。ワークショップで制作された紙彫刻のクリスマス飾りと、ケルトの夕暮れやクリスマスを思い起こさせる音楽の幻想的な世界をお楽しみいただきました。
場所	テーマホール



実施風景



ミニライブ実施風景

第三回こども年賀状展 2011年1月6日(木)～1月10日(月・祝)

主催	平塚市美術館
内容	美術館を身近に感じてもらうための取り組みとして、美術館への年賀状を募集し、届いた年賀状を展示する「第三回こども年賀状展」を開催いたしました。 「ダンスがうまくなりたい」、「部活と勉強を頑張る」など、明るい願いや目標が書かれた年賀状が多数届き、来場者を笑顔にさせました。また、高校生や一般の市民ボランティアの方々に、展示・会場装飾・案内などのご協力をいただきました。
場所	市民アートギャラリー
日数	5日
参加者数	344人



実施風景

ミュージアム・コンサート

3月6日(日) 14:00～15:00

主催	平塚市美術館
出演者	田村安紗美(第一ヴァイオリン)・西本徳子(第二ヴァイオリン)・小山千鶴(ヴィオラ) 植草ひろみ(チェロ)
曲目	曲目 モーツァルト: ディヴェルティメント K138/ハイドン: 弦楽四重奏 Op.64-5「ひばり」/パラディ ス: シチリアーナ/アンダーソン: ワルツィング キャット/ピアソラ: リベルタンゴ他
内容	新日本フィルハーモニーメンバーによる弦楽四重奏を鑑賞いたしました。
場所	テーマホール
参加者数	250人

(2) 団体向け研修・体験プログラム

No	種別	年月日	参加団体	内容	人数
1	学習	4月24日(土)	秦野市身体障害者福祉協会	「長谷川澁二郎展」見学とレクチャー	117人
2	学習	5月13日(木)	公民館自主事業 美術鑑賞講座	「長谷川澁二郎展」見学とレクチャー(松原・崇善・富士見)	24人
3	学習	5月20日(木)	公民館自主事業 美術鑑賞講座	「長谷川澁二郎展」見学とレクチャー(大神)	9人
4	学習	6月1日(火)	株式会社トラベルプラン	「長谷川澁二郎展」見学とレクチャー	27人
5	学習	6月10日(木)	まさご会	「長谷川澁二郎展」見学とレクチャー	15人
6	学習	7月29日(木)	公民館自主事業 美術鑑賞講座	「世界絵本原画展」見学とレクチャー(岡崎・神田・城島)	49人
7	学習	8月5日(木)	平塚市社会福祉協議会	「世界絵本原画展」見学とレクチャー	27人
8	学習	8月12日(木)	公民館自主事業 美術鑑賞講座	「世界絵本原画展」見学とレクチャー(大神・旭南)	28人
9	学習	8月19日(木)	公民館自主事業 美術鑑賞講座	「世界絵本原画展」見学とレクチャー(崇善・富士見・須賀・松原)	23人
10	学習	8月20日(金)	小田原市小学校教育研究会 図工部	「世界絵本原画展」見学とレクチャー	41人
11	学習	8月24日(火)	神田中学校区子ども読書活動推進協議会	「世界絵本原画展」見学とレクチャー	15人
12	学習	8月26日(木)	公民館自主事業 美術鑑賞講座	「世界絵本原画展」見学とレクチャー(大野・八幡・四之宮・中原・松が丘・大原・南原)	55人
13	学習	10月15日(金)	山北町社会福祉協議会	「堀文子展」見学とレクチャー	90人
14	学習	10月19日(火)	茅ヶ崎地区小学校教育委員会	「堀文子展」見学とレクチャー	40人
15	学習	10月21日(木)	公民館自主事業 美術鑑賞講座	「堀文子展」見学とレクチャー(大野・八幡・四之宮・中原・松が丘・大原・南原)	38人
16	学習	10月22日(金)	NHK文化センター前橋教室	「磯江毅展」見学とレクチャー	25人
17	学習	10月22日(金)	目黒区美術館ボランティア会	「磯江毅展」見学とレクチャー	39人
18	学習	10月30日(土)	開成町教育委員会	「堀文子展」見学とレクチャー	13人
19	学習	11月17日(水)	アート21	「堀文子展」見学とレクチャー	20人
20	学習	11月18日(木)	公民館自主事業 美術鑑賞講座	「堀文子展」見学とレクチャー	10人
21	学習	2月8日(火)	伊勢原市小学校教育研究会 図工部会	「春の所蔵品展」見学とレクチャー	25人
22	学習	2月22日(火)	公民館自主事業 美術鑑賞講座	「春の所蔵品展」見学とレクチャー(茅ヶ崎市立松林)	11人
計					741人

(3) 職場体験

市内の中学生、高校生が現場で仕事を実際に体験することによって、社会性・勤労観やマナーを身につけ、将来の職業選択につながるよう、職場体験の受け入れを行っています。

No.	年月日	参加者	人数	内容
1	2010年7月6日	江陽中学校2年生	5名(男4、女1)	館の概要講義及び業務体験
2	7月15日	大磯高等学校1年生	20名(男7、女13)	館の概要講義及び施設見学
3	7月22日	平塚湘風高等学校2年生	3名(女3)	館の概要講義及び業務体験
4	8月10日	二宮中学校2年生	1名(男1)	館の概要講義及び業務体験
5	11月16日	浜岳中学校2年生	5名(男5)	館の概要講義及び業務体験
6	2011年1月20日	神明中学校2年生	2名(男1、女1)	館の概要講義及び業務体験
7	1月28日	太洋中学校1年生	2名(男2)	館の概要講義及び業務体験
				参加者 計 38人

(4) 定例会議

美術館協議会

委員(敬称略) 8名

山梨俊夫(学識経験者)、滝波重人(学識経験者)、木下一士(学識経験者)、望月正大(学校教育関係者)、野島健二(学校教育関係者)、大橋千賀子(学校教育関係者)、平野恵美子(社会教育関係者)、今関健司(社会教育関係者)

開催日/議題

第1回 2010年10月27日(水) 平成22年度事業計画及び今までの事業結果について

第2回 2011年3月9日(水) 平成22年度下半期事業報告、平成23年度事業計画(案)について

美術品選定評価委員会

委員(敬称略) 5名

酒井忠康(学識経験者)、水沢勉(学識経験者)、荒屋鋪透(学識経験者)、加藤弘子(学識経験者)、猿渡紀代子(学識経験者)

開催日/議題

2010年12月5日(日) 寄贈・寄託作品の収蔵の選定と評価

(5) 「平塚市美術館友の会」活動

2002年4月発足。会員は美術館主催事業または連携事業を通じて交流をもち、各自の知識と教養を深め、平塚市の文化芸術の向上に寄与することを目的に設立。

会員数：158人

特典：2004年4月より実施。特集展は団体料金を適用、企画展は100円を減免。企画展案内送付。

2011年3月をもって活動を終了。

(6)その他

4月1日から観覧料等料金改正の実施

市内60歳以上無料を市内65歳以上に引き上げ

市外65歳以上の観覧料に団体割引を適用

障害者の割引を市内から全国へ適用

日本画家の山本直彰氏が、神奈川文化賞を受賞しました。当館で2009年に開催した「帰還する風景 山本直彰展」が受賞理由となりました。

今年度当館で開催した「平明・静謐・孤高 - 長谷川湊二郎展」が、美術館連絡協議会のカタログ賞を受賞しました。

3月11日に発生した東日本大震災による措置

3月11日(金)・12日(土)・15日(火)～31日(木) 臨時休館

施設利用者等の統計

(1) 展覧会

入場者数 月別統計

月	開館日数	企画展	特集展	合計
4月	26日	2,529人	2,244人	4,773人
5月	27日	7,624人	6,174人	13,798人
6月	26日	15,799人	242人	16,041人
7月	27日	3,450人	3,059人	6,509人
8月	26日	10,139人	7,685人	17,824人
9月	26日		814人	814人
10月	27日	6,236人	6,049人	12,285人
11月	25日	10,945人	8,533人	19,478人
12月	24日		1,217人	1,217人
1月	24日		875人	875人
2月	24日		869人	869人
3月	11日		312人	312人
4月	9日		254人	254人
計	302日	56,722人	38,327人	95,049人

平成23年4月10日までが当該年度の展覧会

学校観覧

		企画展			特集展		
		学校数	生徒数	教員数	学校数	生徒数	教員数
小学校	市内	3校	220人	15人	7校	436人	28人
	市外	8校	404人	28人	12校	717人	46人
中学校	市内	5校	41人	7人	6校	33人	16人
	市外	5校	66人	5人	7校	117人	18人
高等学校		1校	9人	4人	3校	19人	6人
計		22校	740人	59人	35校	1,322人	114人

平成23年3月31日現在

(2) 貸出施設

市民アートギャラリー 月別統計

月	利用日数	団体数	入場者数
4月	25日	5団体	4,376人
5月	24日	7団体	4,934人
6月	33日	4団体	6,645人
7月	24日	6団体	4,536人
8月	30日	9団体	7,723人
9月	24日	5団体	4,329人
10月	24日	4団体	5,320人
11月	30日	7団体	11,711人
12月	18日	4団体	3,267人
1月	18日	4団体	4,007人
2月	24日	5団体	4,245人
3月	11日	4団体	2,882人
計	291日	64団体	63,975人

平成23年3月31日現在

ミュージアムホール 月別統計

月	利用日数	団体数	入場者数
4月	5日	5団体	432人
5月	0日	0団体	0人
6月	1日	1団体	95人
7月	6日	6団体	646人
8月	0日	0団体	0人
9月	7日	7団体	315人
10月	3日	3団体	270人
11月	4日	4団体	353人
12月	10日	11団体	917人
1月	8日	8団体	502人
2月	9日	9団体	602人
3月	5日	5団体	139人
計	58日	59団体	4,271人

平成23年3月31日現在

アトリエ 月別統計

月	利用日数	団体数	入場者数
4月	4日	4団体	15人
5月	3日	3団体	13人
6月	4日	4団体	34人
7月	2日	2団体	5人
8月	2日	2団体	6人
9月	5日	5団体	27人
10月	5日	5団体	67人
11月	2日	2団体	17人
12月	2日	2団体	8人
1月	1日	1団体	9人
2月	4日	4団体	28人
3月	1日	1団体	2人
計	35日	35団体	231人

平成23年3月31日現在

施設の管理

(1)防災訓練

実施日時：2010年6月9日(水) / 9:00～9:30

内容：通報・消火(水消火器を使用)・避難誘導訓練、各自の役割・展示室からの避難経路の確認。

想定：美術館1階の「市民アートギャラリー厨房」で火災発生、施設利用者75人が来館中と想定。

(2)自動ドア修繕工事

実施日時：2010年6月7日(月)

内容：美術館東側出入口の自動ドアの部品交換工事を実施。

(3)エレベーター修繕工事

実施日時：2010年12月13日(月)・20日(月)・27日(月)

内容：美術館乗用エレベーターの部品交換工事を実施。

沿革

1971年(S46)

11月 フクスケ画廊2周年記念パーティに集った作家たちより「平塚市へ美術館建設の要望をすること」の申請なされる。加藤一太郎市長、平野博収入役より「一作家一点寄贈運動」の提案。

1977年(S52)

3月 新設された平塚市博物館で「平塚市所蔵美術展」の開催、あわせて『平塚市所蔵美術品目録』の発行。
9月 企画展「鳥海青児と昭和の画家たち展 神奈川芸術祭」(神奈川県立近代美術館共催)、会場は平塚市博物館。

1982年(S57)

5月 社会教育委員会議議長名で「平塚市美術館建設について」の建議が教育長宛になされる。

1984年(S59)

4月 石川京一市長が美術館建設を公約として、市長選2期目に再選される。
5月 「美術館建設研究委員会」発足(庁内組織 委員長:山本桂一郎 教育委員会指導部)。
9月 平塚美術協会が「平塚市美術館早期促進建設の為の陳情書」を市に提出。

1985年(S60)

7月 「平塚市美術館建設基本構想策定委員会」設置(～1986年まで全8回開催)。
構成委員は次の通り。落合良延、陰里鉄郎、匠秀夫、田中穰、原田実、平野博、升水滋、水島英耀、湯井勝(敬称略)。

1986年(S61)

3月 「平塚市美術館建設基本構想策定」答申。湘南の中心に位置する美術館としてメインテーマを「湘南の美術・光」とする。
4月 「美術館建設基本計画策定連絡協議会」の設置(庁内組織)。
「第1回平塚市美術品選定評価委員会」の開催(於 平塚市博物館)。
9月 「平塚市美術館新築設計技術提案審査会」発足。プロポーザル予備審査会、本審査会を開催、9社の提案を審査。

1988年(S63)

1月 大蔵省との美術館建設用地払い下げ契約完了。(株)日建設計と委託契約。
4月 「平塚市教育委員会指導部美術館建設準備室」として博物館から独立、設置。

1989年(H元)

3月 「仮称平塚市美術館建築工事(本体工事費)」の議決なされる。
7月14日 「平塚市美術館建設起工」。仮称平塚市美術館新築工事安全祈願祭に石川市長ほか関係者約70名が出席。

1990年(H2)

10月 「平塚市美術館本体工事」竣工。
12月 「平塚市美術館条例」公布。

1991年(H3) 平塚市美術館開館

3月 美術館のシンボル彫刻《コンストラクション#115》ホセ・デ・リヴェラ作の搬入設置。
3月25日 平塚市美術館開館(初代館長に原田実が就任)、記念式典の開催。26日より一般公開。
開館記念展「スイス プチパレ美術館名品展 タルコフとエコール・ド・パリの画家たち」～5月5日まで。
5月18日～6月16日 開館記念展「湘南の萬鉄五郎」
7月 「平塚市展」はこの第14回展以降毎年、平塚市美術館展示室と市民アートギャラリーで開催。

1992年(H4)

3月20日～4月19日 「市制60周年記念 相模の禅僧 風外慧薫作品展 平塚市博物館所蔵・高瀬コレクション」
7月 第15回平塚市展から「美術館賞」の設定、審査は館長が行う。
11月14日～12月13日 「市制60周年記念 田中真洲回顧展」開催。

1993年(H5)

7月 博物館実習生の受け入れを開始。

1994年(H6)

3月 教育普及活動関連冊子ワークショップオリジナルブック 「読むワークショップ」の刊行開始(年2冊～1999年)。

1995年(H7)

4月 教育普及活動において、市民参加型長期プログラム「ワークショップクラブ」発足。

1996年(H8)

11月9日～12月22日 開館5周年記念展「ミレーとバルビゾン派の画家たち」開催。

10月 美術館内における総合的な地震対策の開始：彫刻転倒防止措置、スポットライト落下防止措置等。

1997年(H9)

4月 2代目館長に福田徳樹（フダ トク）就任。

1999年(H11)

5月 常設展示を発展させた、所蔵品による「特集展示」の企画開始。

2000年(H12)

10月14日～22日 平塚市神奈川大学交流提携10周年記念「開港期の神奈川・世界が見た日本」展開催。

2001年(H13)

7月26日～9月30日 開館10周年記念展「湘南の美術・光 美術館建設運動から開館10周年まで」開催。

2002年(H14)

2月9日～3月24日 開館10周年記念展「日本画の巨匠 安田靉彦 歴史画の魅力」開催。

4月 「平塚市美術館友の会」発足。

11月2日～12月23日 市制70周年記念「原精一 人間表現の魅力」展開催。

2003年(H15)

2月2日～3月30日 平塚市・神奈川大学交流事業 地域コレクションシリーズ 「神奈川大学図書館所蔵 パリ・コミュニケーションの風刺画 1871年ペンと大砲の市民革命」展開催。

2004年(H16)

4月 3代目館長に、草薙奈津子（クサギ ナツコ）就任。

2005年(H17)

7月23日～9月11日 「生誕100年記念 三岸節子展」

2006年(H18)

1月～3月 展示室可動壁のクロス張替え作業のため休室。

9月20日 皇后美智子さまがご来館。

「世界の絵本がやってきた ブラティスラヴァ世界絵本原画展」をご鑑賞されました。

10月14日～11月26日 開館15周年記念展「日本画の巨匠 山本丘人展」開催。

2007年(H19)

4月14日～5月27日 「三沢厚彦アニマルズ+PLUS」展開催。

9月15日～11月4日 「絵で読む宮沢賢治展 賢治と絵本原画の世界」展開催。

2008年(H20)

2月2日～3月23日 河野通勢展 美術館連絡協議会の2008年度「美連協大賞」を受賞。

11月7日 妃殿下秋篠宮紀子さまがご来館。

「近代日本画の巨匠 速水御舟 - 新たなる魅力」展をご鑑賞されました。

2009年(H21)

7月11日～9月6日 「山本直彰展 帰還する風景」。

7月18日～8月30日 「わたしがえらんだいわさきちひろ展」39,844人の観覧者を記録し歴代入場者数1位となる。

2011年(H23)

3月11日 東日本大震災発生。美術館に被害なし。電力不足を考慮し、臨時休館を実施。

平成 22 年度 平塚市美術館年報

発行年月：2011 年 7 月

編集・発行：平塚市美術館

〒254-0073 神奈川県平塚市西八幡 1-3-3

電話 0463-35-2111

<http://www.city.hiratsuska.kanagawa.jp/art-muse/>

